

はたらく
地方公務員の
ための



ボランティア ガイドブック

・豊かな人生づくりをめざして・

はじめに

本書は、企業や公的機関で働いている人のためのボランティア活動入門書です。といっても、これでは対象が広すぎて焦点がボケてしまいますので、一応本書ではその中の特に「お父さん」を相手に語っていくかたちにしました。

これまでも、「市民一般」つまり不特定多数の人を対象とした入門書は数多くあります。しかし、それでは結局どの人にも役に立たないものになってしまいます。

働いている人には働いている人の事情、家にいる人には家にいる人の事情、そして子供には子供なりの事情というものがあるからです。

本書はだから、働いている人の事情を百パーセント頭に入れて作られています。

しかし、実際のところ働いている人にとっては「ボランティア」なるものは、まだ遠い存在で、日常生活ないし日常業務の中にこんなものが入り込む余地は、ほとんどないというのが、正直なところでしょう。なぜそれほどまでして「ボランティア」をしなければならないのか、そのあたりからもう理解できないという人がほとんどだと思います。

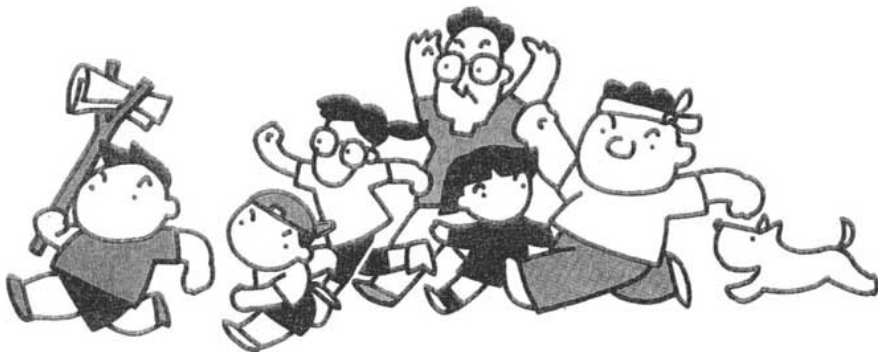
* * *

そうした人たちの疑問に応えつつ、彼らの置かれた特殊な事情を勘案しながら、それでも彼らにでき得るボランティア活動のメニュー、というよりはヒントを、敢えて提供してみました。

読んでいって、意外な感じがするに違いありません。「えっ、こんなものをボランティアっていうの？」というあなたの声がこちらにも聞こえてきそうです。そう、ボランティアというものは、これくらい「やわらかく」考えた方がいいのです。そうしたら、忙しいあなたでも、ボランティアに抵抗を感じていたあなたでも、必ずできることが見つかるはずです。なにしろ、もっと豊かになりたいと思い、それを獲得しようと努めることだってボランティアだというのですから。

これだけ広く「ボランティア」をとらえるならばなおさら、活動のメニューはそれこそ無限だといえるほどたくさんあります。特に、公務員の場合は、自己の業務でも市民感覚を生かせばできる「本業ボランティア」があるのですから。

これを機会に、日頃の生活の中で何か自分なりに取り組みそうなことを、しなやかにそしてしたたかにボランティアしてみませんか。自分自身を豊かにするために。



目次

第1章

私の豊かさ・総点検

妻はなぜ夫を捨てたくなったのか？

- (1) 妻はなぜ夫を捨てたくなったのか？ 7
- (2) 誰も豊かになりたい。豊かさの要件は？ 8
- (3) あなたは何型？
- お父さんの豊かさ具合・五つのパターン 9
- (4) 妻と夫の豊かさを比較してみたら 10
- (5) 豊かさのコツは「まんべんなく」だった 12
- (6) 過去を振り返りこれからの人生をデザイン 13

第2章

私の豊かさをはばむ「障害物」の除去作業

ついでに老後対策も。

- (1) こころざし高ければ「障害物」多し 17
- (2) 子連れママの欲深な豊かさ作戦に学べ 18
- (3) あなたの豊かさをはばむ障害物を総点検 20
- (4) それぞれの障害物をどう除去していくか 21
- (5) 「老後対策」も人生設計に組み込まねば 25
- (6) 学べ、この人たちの危機管理のセンス 26

第3章

豊かさへの意外な近道 —— ボランティア

これが日本人にホッカリ抜けている！

- (1) 豊かさへの大穴場があった！ 31
- (2) モーレツサラリーマンの松本さんは
なぜボランティア活動に魅せられたのか？ 32



(3) ボランティア活動への八つの入り口.....	3 4
「自分」の問題を「自分たち」の問題に	
- それが一つの「活動」だ.....	3 5
「家庭サービス」をひらけば	
それも「活動」になる.....	3 7
「環境」も「平和」もつきつめれば	
大きな「自分事」だ.....	4 1
「ボランティア妻」の後方支援だって	
立派な活動.....	4 3
職場の周辺でこれだけの活動メニュー.....	4 4
「企業」という「ボランティア」.....	4 6
「モチはモチ屋」の腕を生かせば百人力.....	4 7
「趣味をひらけ」ば、さまざまな	
ボランティア・チャンス.....	4 9



公務員の「本業ボランティア」活動

市民サービスを延長すればこれも活動。

- (1) 通常のサービスをもう一步踏み込めば
「ボランティア」の匂いがしはじめる 5 5
- (2) 郵便局は、結局は
地域のコミュニティセンターになる? 5 7
- (3) 犯罪取締りから非行防止、健全育成へ、
進むほど「ボランティア」の味が 5 9
- (4) 「火災」の周辺に
さまざまなニーズが待ち構えている 6 1
- (5) 市民の活動をそうと認知して、
地域に「分館」を作っていくのも活動だ 6 3

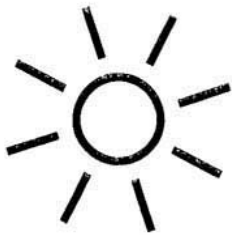
付録 ● 神奈川県内関係機関一覧

第1章

私の豊かさ・総点検

妻はなぜ夫を捨てたくなったのか？





1 妻はなぜ夫を捨てたくなったのか？

「待ってました離婚」！

最近、夫の定年退職と同時に縁切りを持ち出す妻が増えています。今まで我慢してきたのも、私に生活力がなかったから。その夫が退職したとなれば、もう一緒にいる理由がなくなったというのです。「縁切り」までいなくても、「事実上、妻は夫を捨てている」証拠はいくらでも挙げるができます。

老後に夫の半数は捨てられている！

右のグラフを見てください。いずれも60歳以上の夫婦に対して行なわれた調査ですが、例えば「あなたは誰と旅行に行きたいか？」。夫は「妻と」が65%。しかし、妻の方は「夫と」と答えたのは34%にすぎません。他の調査の場合もほぼ同じ結果が出ています。つまり、夫の妻に対する期待度と、妻の夫に対する期待度は、ほぼ2対1。老後に夫の半数は妻に捨てられている、と言えましょう。

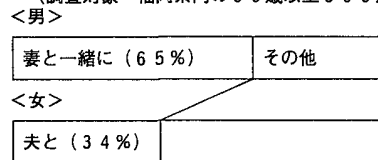
妻は30代でもう夫を捨てたがっている！

服、本、家具、引き出物、おもちゃ、電気製品、食品、布団、ベビー用品、夫

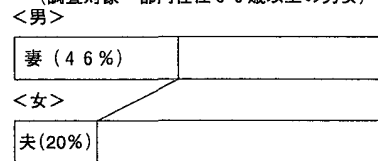
上の表は一体、何を示したものと思いますか？住友生命が30代の主婦を対象に「家の中で捨てたい物」を尋ねたのです。「夫」も10位に入っています。とうとう妻は退職後まで待てなくなりました！

この数字を見よ！

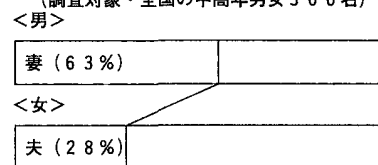
(1) 「誰と旅行に行きたいか？」 (西日本銀行調べ)
(調査対象・福岡県内の60歳以上800人)



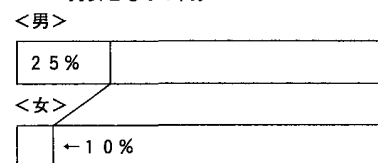
(2) 「老後の話し相手は？」 (東京都調べ)
(調査対象・都内在住60歳以上の男女)

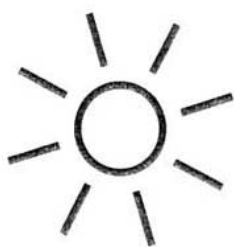


(3) 「老後の頼りは何か？」 (片岡物産調べ)
(調査対象・全国の中高年男女300名)



(4) 「老後で何が最も重要か？」 (総務庁調べ)
(調査対象・全国の中高年男女3000名)
→うち「夫婦関係」と答えたものの割合
男女とも60代。



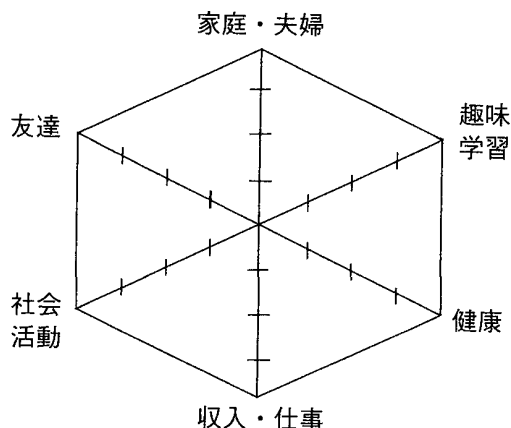


2 誰も豊かになりたい！豊かさの要件は？

「豊かさダイアグラム」を作ってみよう

「豊かになるにはどんな要素が必要ですか」と尋ねると、たいていは右の六角形にあるように、この六つの項目が出てきます。この一つ一つが意味するものは、なかなか「深長」なのですが、ここではごく単純に文字通りと受け止めてください。

この六角形をダイアグラムといいます。「豊かさのダイアグラム」です。どうやら人々は、この へ向けてその充足を求めているようです。今、社会全体では のあたり にたどりついたと見ていいでしょう。

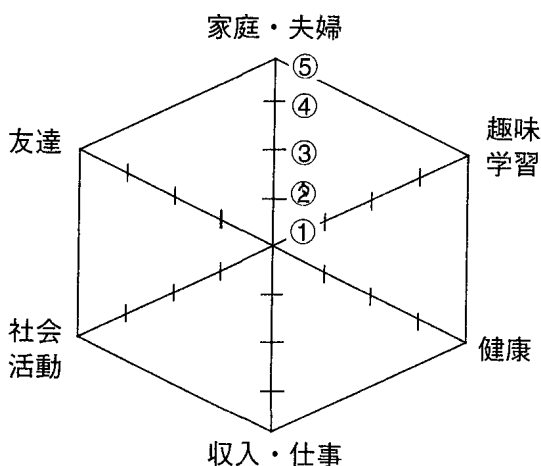


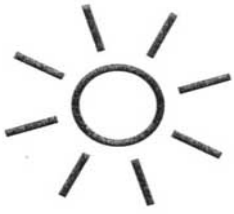
あなたの豊かさを測ってみたら？

とりあえず、自分の豊かさをこのダイアグラムで測ってみたいかがでしょうか。

図のように、五段階になっていて が最も貧しくて、 と上がっていくほど充足度は高くなり、 が最高ということになります。

なにせ、客観的な測定基準がないので、各自の主観に任せるより仕方がないのですが、そこはこの際辛抱してください。絶対評価は無理としても、この六つの相関関係ぐらいは出るはずですよ。さて、自分は何が欠けていたでしょうか？



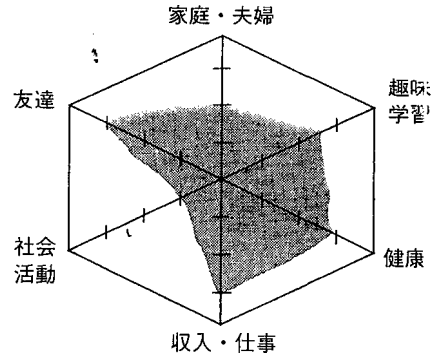


3 あなたは何型？—お父さんの豊かさ具合・五つのパターン

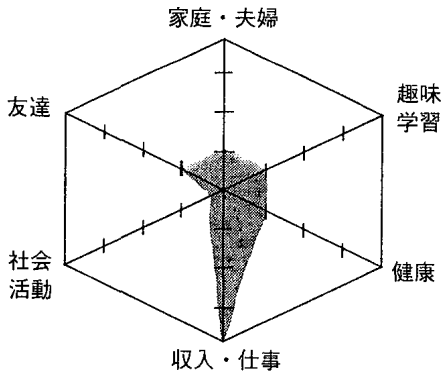
「マイホーム型」から「企業戦士型」まで

お父さんの生き方にも、いくつかのパターンがあるようです。ここに五つの型を紹介してみました。自分はどの型にいちばん近いか、点検してみてください。

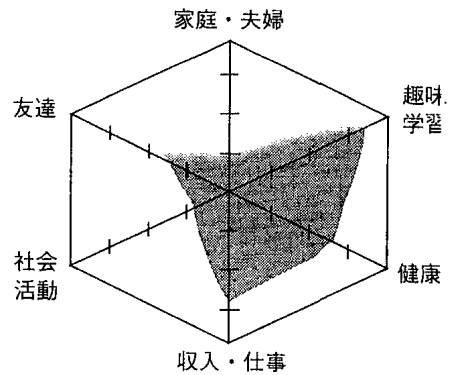
「五時から男」・パパ



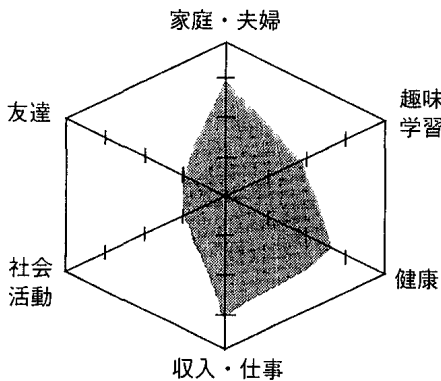
企業戦士・パパ



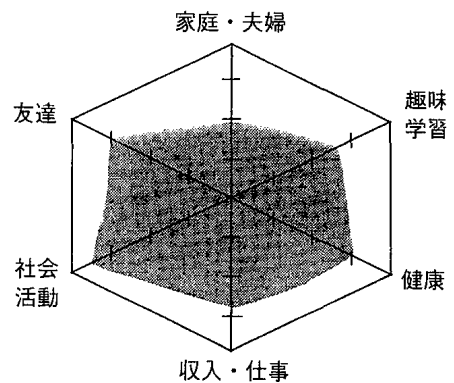
趣味一辺倒・パパ

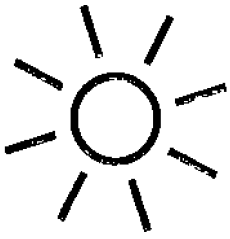


マイホーム・パパ



ボランティア・パパ





4 妻と夫の豊かさを比較してみたら

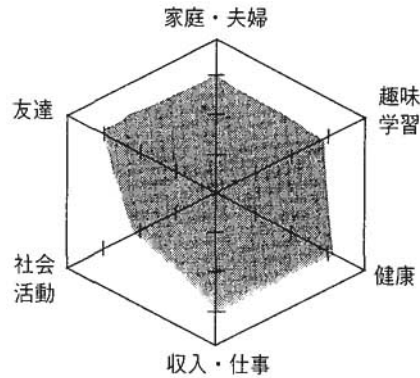
妻は総体的には「まあまあ」だが... 「妻の豊かさ」一見「まあまあ」だが...

右のダイヤグラムのとおり、妻の豊かさを測ると、総体的には「まあまあ」となるのですが、この中の「夫婦」の部分拡大して、みたらどうなるでしょう。

そこで「夫婦」の豊かさだけを測るダイヤグラムを作ってみました。そしたら...

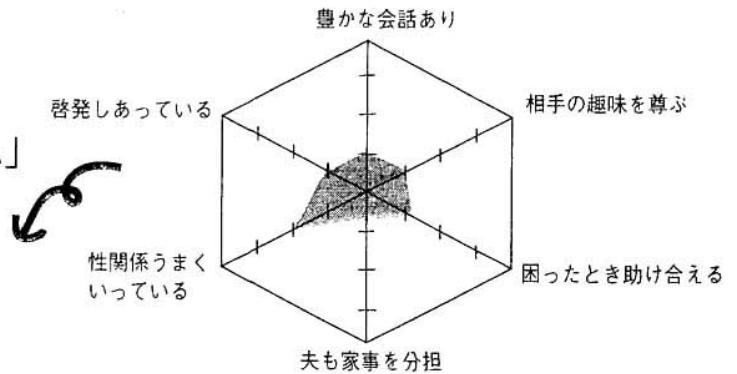
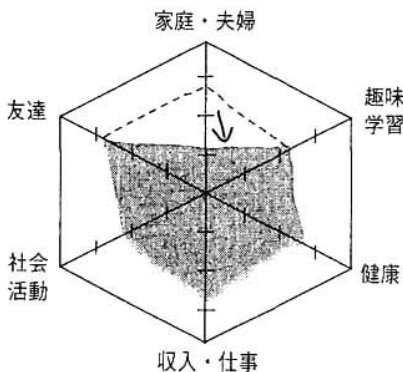
「夫婦」の部分だけが「貧しい」！

意外なほどに「貧しい」と出ました。この事実を元のダイヤグラムに反映させてみたら、彼女にとってこの「夫婦」の部分のみが「貧しい」と出たのです。そこで「夫を捨てたくなった」？



「夫婦の豊かさダイヤグラム」に乗せてみたら

妻の「修正・豊かさダイヤグラム」

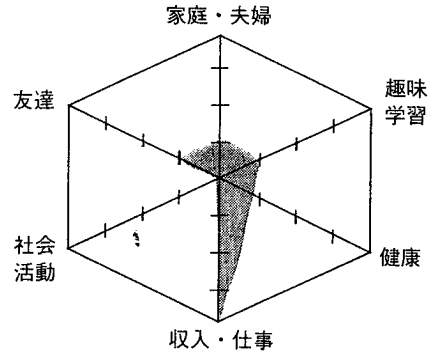


夫は「仕事がいいのち」というけれど... 「夫の豊かさ」一見「仕事があるぞ！」

一方の「夫」の方ですが、「たしかに仕事以外は貧しいが、しかし、仕事は充実しているぞ」と反論するかもしれません。しかしその「仕事」をもっと細かく点検してみたら...

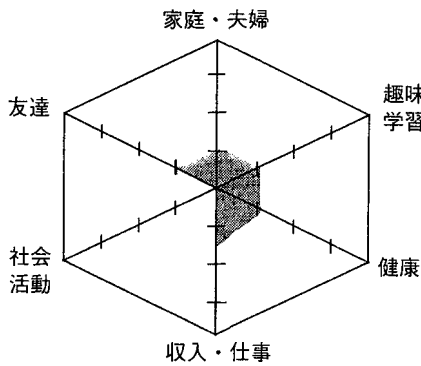
「仕事」はこんなにも貧しかった

そこで、「仕事」だけの豊かさダイアグラムを作ってみました。そこで出てきた夫の「仕事」は、こんなにも貧しかった！ この事実を、元のダイアグラムに反映させてみたら、夫は「すべてに」わたって貧しかったということになります。

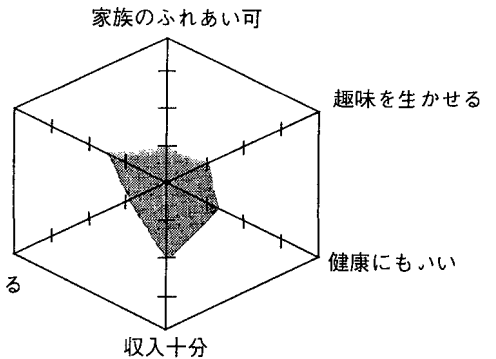


「仕事の豊かさダイアグラム」に乗せてみたら

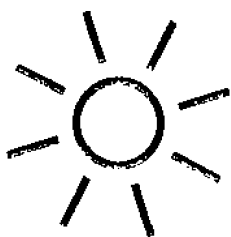
夫の「修正・豊かさダイアグラム」
豊かな人間関係 図れる



社会のためにもなる



あなたは自分が考えている以上に貧しい！



5豊かさのコツは「まんべんなく」だった

女性の「仕事」は「豊かになること」

ある専業主婦。夫が働いているので、生活には不自由しなかったが、なんとなくむなし
いと思い、庭をつぶしてお店を開いた。そこで、自分の趣味で作ったものを置き、ついでに近所の老人が作ったものも置いてあげる。そして、この店が近隣の主婦たちの井戸端会議場になればと考えた。今までよりも生活に「張り」ができて健康にもよい。家で仕事ができるから家族のスキンシップも図れる。

つまり女性にとって「仕事」とは「豊かになること」だったのです。

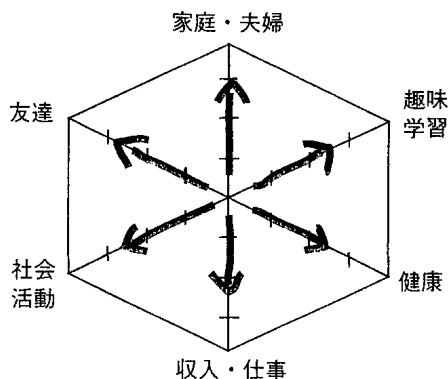
男性の「仕事」は「すべてを失うこと」

ところが、一方の男性にとっては、ちょうどこの反対。仕事のために 家族のスキンシップを失い、趣味ができず、健康を失い、友達ができず、社会活動もできない。

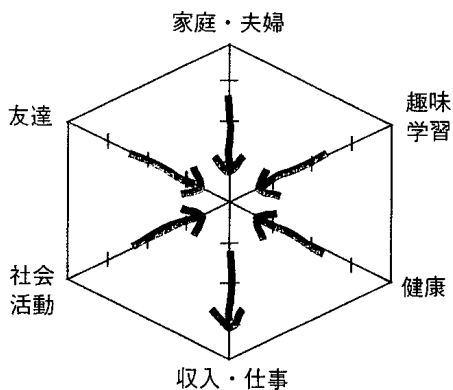
つまり男性にとって「仕事」とは「それによってすべてを失うこと」、とことん貧しくなること、なのでした。

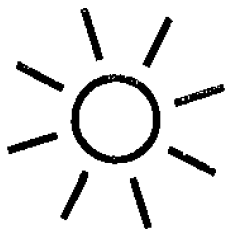
要は「仕事」というものに、「豊かさ」への他の五つの要素をいかに盛り込めるかが、別れ道になっていたのです。

女性にとって「仕事」とは「すべてにわたり豊かになること」



男性にとって「仕事」とは「お金のためにすべてを失うこと」

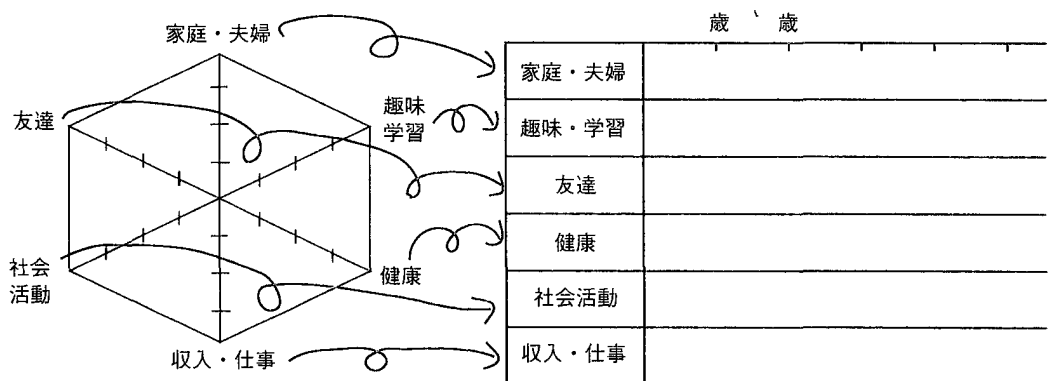




6 過去を振り返りこれからの人生をデザイン

まず「ミニ自分史」を作ってみる

豊かな人生づくりは、まずこれまでの人生を振り返ってみることから。そこで、ここで簡単な自分史を作ってみませんか。それも、ただ振り返るのではなく豊かさのダイアグラムで使った六つの要素を生かし、そのそれぞれについて、個別に振り返り、個別に評価を下した後、総合評価をしてみてください。



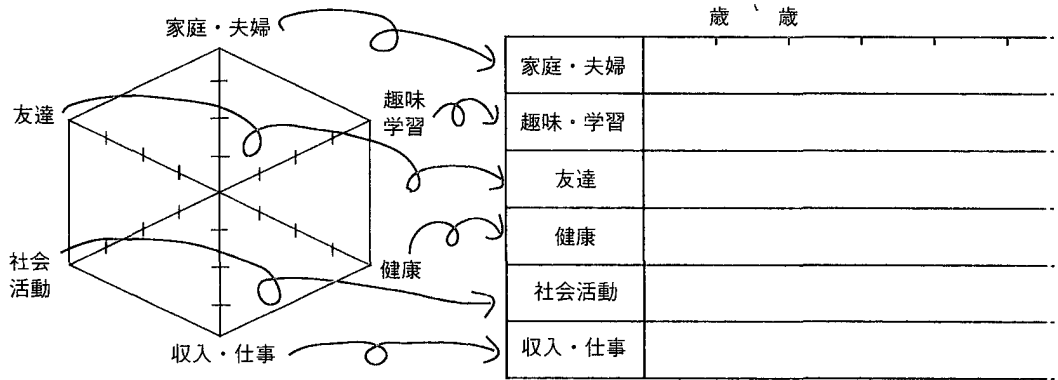
個別評価

総合評価

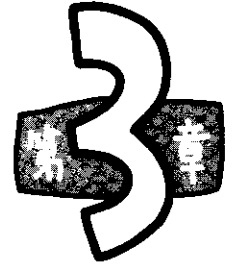
	個別評価	総合評価

そしてこれからのライフデザイン

自分史づくりで、六項目の個々の評価と総合評価が出たら、それを頭に入れて、今度はこれからの人生を設計してみてください。重点はどれに、どのように置くのか、そしてどの項目とどの項目をどのように関連させるのか、が重要なポイントです。

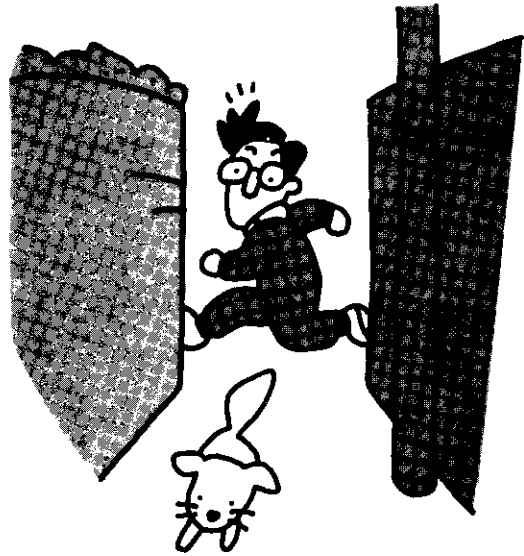


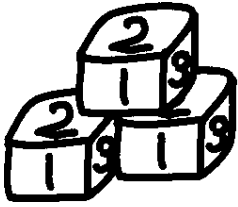
	個別評価	総合評価



豊かさへの意外な近道 ——ボランティア

これが日本人にホッカリ抜けている!





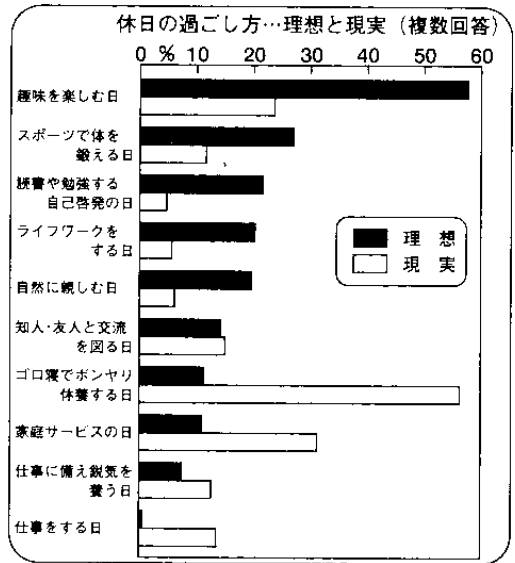
1 豊かさへの大穴場があった！

余暇調査の質問項目にもコレがない！

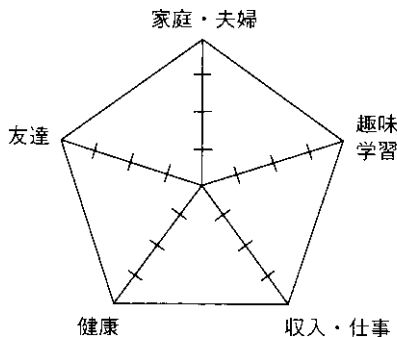
右のグラフを見てください。こういう調査がよく行なわれますが、そこには、「ボランティア」という項目は見当りません。人生設計とか、生きがい対策とか、余暇の過ごし方等に関する調査には「ボランティア」という質問項目そのものがないのです。

日本人の豊かさダイヤは五角形だった

第1章で紹介した豊かさのダイヤグラムはじつは欧米人のもので、私たち日本人のダイヤグラムは「ボランティア」がない五角形だったわけです。



日本人の豊かさダイヤグラム



あの湾岸戦争で日本人の人質は「学んだ」

あの湾岸戦争で欧米数カ国の市民が人質になったが、彼らの行動様式にお国柄が出た。日本人は文字どおり人質に徹していたのに対し、フランス人はしきりに暴動を起こす。アメリカ人は多国籍軍が爆撃しやすいように収容所の広場に目印をつけている。つまり自分の置かれた状況でどんな役割が果たせるかと考える。

われわれ日本人と彼らとはなにかが違う、と日本人商社マンは気づき始めた。最後の最後に解放された日本人人質はもっと別の言い方をしていた。「われわれは彼らに学んだ」。



部下にカミナリを落とす日々。なにが欠けている？

典型的にな「企業戦士」の松本憲治支店長は、障害児施設職員の奇妙な体験を耳にした。障害児を救うために就職したはずなのに、逆にその子たちに教えられるようになるという。しかも、この仕事にたずさわっている間に、ボーイフレンドがアホに見えて、「縁を切る」女子職員も少なくないだろうという。この「福祉」という世界には、自分たち企業人には創造もつかない不思議な「何か」があるのかもしれないと、松本さんは思った。

氏自身、「頼りない部下」にしょっちゅう苛立っては雷を落とし、あげくは会社を辞められ、部下の扱い方にはとことんてこずっていた矢先でもあり、好奇心をそそられて、昭和60年、広島市西区の社会福祉協議会に「土・日だけなら」とボランティア志願。

たまたま「おもちゃの図書館」ができたばかりなのでお願いしますと、そちらを紹介された。「部下にはゼツタイ見せられん」と自身のエプロン姿にテレつつ、障害児に体当たりしていった。

「おもちゃの図書館」程度では満足できず、区のボランティアのリーダーにさすがは「企業戦士」、走り出したら、もう止まらない。この「おもちゃの図書館」でも、単なる「走り使い」程度の活動では満足できず、氏自ら「手作りおもちゃの講習会」を開くなど、どんどん先へ進み始めてしまった。

そればかりではない。同区が区内のボランティアへ配布している新聞の編集も一手に引き受けてしまう。今では区内の若いボランティアたちの良い兄貴分におさまっているらしい。毎年夏に催される高校生のワークキャンプでは、老人ホームに泊り込んで陣頭指揮をとった。

社員の特技を把握し、それを生かせる場面で「ボランティア」派遣

「俺自身はまだ勉強中」と言いながらも、障害児たちが海水浴に行きたいと言えば新入社員を差し向ける。釣りがしたいといえば、釣り好きの社員に「おまえ、行ってこい！」ワークキャンプなどのイベントがあれば、採用内定者などを派遣する。





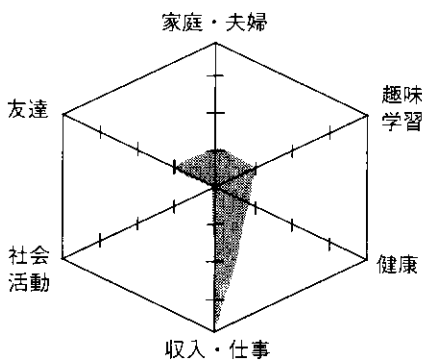
その他にも、ボーリングが得意な職員や学生時代に演劇部に所属していた職員など、1人ひとりの「特技」が彼の頭に入っていて、いつどのようなときに生かそうかと、そればかりを考えている。

「たらたらする」理由があるんだな...

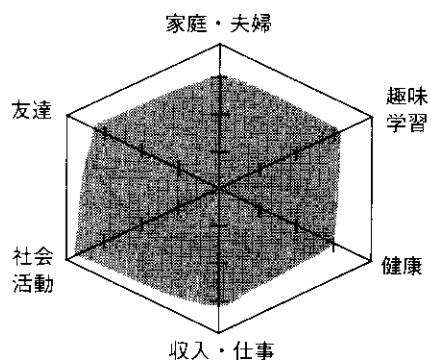
人使いは、お手のものである。福祉イベントのポスター作りは、社に出入りしている広告代理店を口説いて「福祉料金」でやらせる。

ワークキャンプのビデオを作ろうとなれば、まず区内の機器レンタル業者を回って協力を説き、それが駄目となると、今度は高校に働きかけ、結局、機材と撮影は高校の放送部を動員、プロのナレーターを使い、資金は業界仲間に都合させることにした。

部下をどなり散らすばかりだった松本さんも、障害児等とのふれあいの中で変わってきた。今までは「たらたらしている」職員を叱るばかりだったが、障害児と接している間に、「たらたらする」にもそれなりの理由があるのだと、わかってきた。「痼癩を起こす回数が、3回に1回に減った」



以前の松本さん



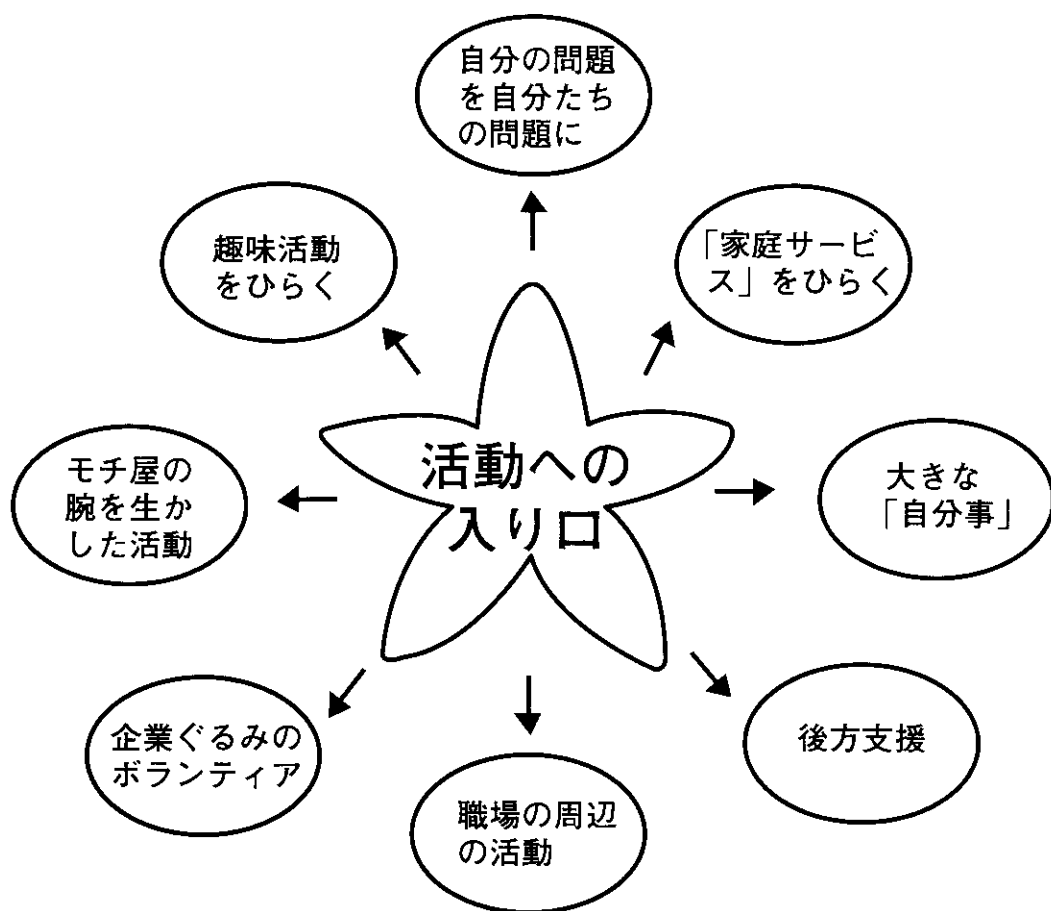
今の松本さん



3 ボランティア活動への八つの入り口

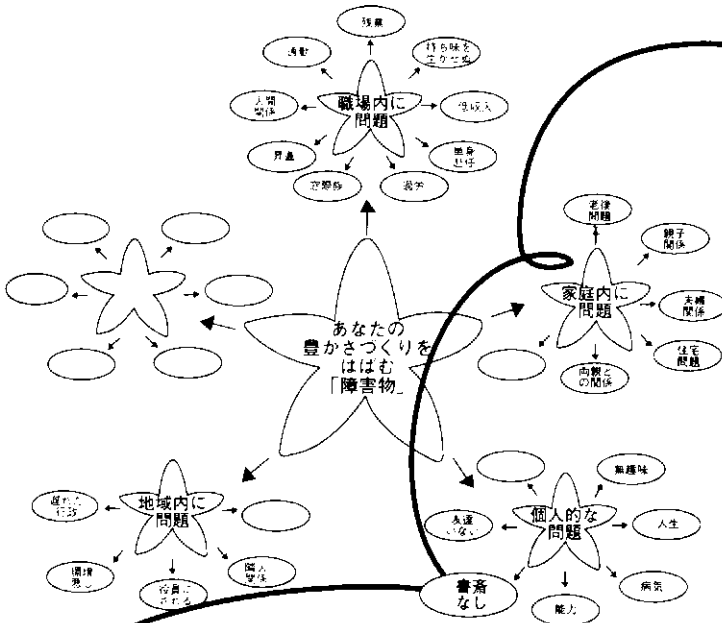
さて「わたし」はどの入り口が入りやすいかな...

それでは、「ボランティア」活動にはどんな種類があるのか。これを「入り口」という面から見てみましょう。活動への入り口をここでは八つの側面から紹介していくことにします。いずれも、お父さん自身にとってなんらかの接点があるものと思われます。以降、その一つ一つについて詳細に例示していきますので、自分に最も「入りやすい」入り口を見つけてください。



「自分」の問題を「自分たち」の問題に それが一つの「活動」だ。

前の章で取り上げた下の図をもう一度振り返ってみてください。この「わたしの豊かさをはばむ障害物」の除去を、仲間と一緒にやっていけば、つまり、「自分の問題」を「自分たちの問題」ととらえて共同で取り組んでいけば、それがそのまま「ボランティア活動」になります。たとえば...



公民館に「わくわくクラブ」
公民館にも中高年男性のサークルが誕生しはじめています。今まで全く縁のなかった公民館にも自分たちの居場所を求めるようになった。

神奈川県藤沢市湘南大庭公民館が開いた成人男性対象の「男の腕まくり講座」。料理やジャズダンス、生活設計など多彩な内容で毎月1回、日曜日に行っている。その卒業生で88年、これからも交流していこうと「わくわくクラブ」が生まれた。

全員（19人）が現役のサラリーマンで、毎月第3日曜日に集まり、指導者を招いて料理をしたり、郷土史家とともに歴史散歩をしたり、スポーツをしたりと多彩な活動。

活動後はお決まりの「飲みニュケーション」。おかげで地元にも思いがけなくステキな飲み屋も発見した。

家にパパの占める場がない！
単身赴任を終えて久しぶりでわが家に戻ってきたら、自分の居るべき場がなくなっていた。そこでまた志願して単身赴任へ...。お父さんが人間らしい生き方を取り戻そうと目覚めたら、意外な問題が待ち構えていた。家にも地域にも彼らの居場所がないのだ。そこで...

団地内に「カラオケバー」づくり

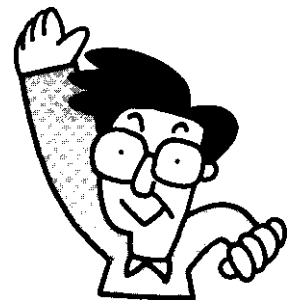
サラリーマンがアフタファイブを豊かに過ごそうと、例えばコンサートに行くことを考えても、そうすれば家に帰れない。できれば帰宅してからカミさんとコンサートを楽しむような所が地域にあればと思う。そこで団地にオトサンたちがつるげる場を作る動きが出てきた。

横浜市戸塚区の大正団地に住民の

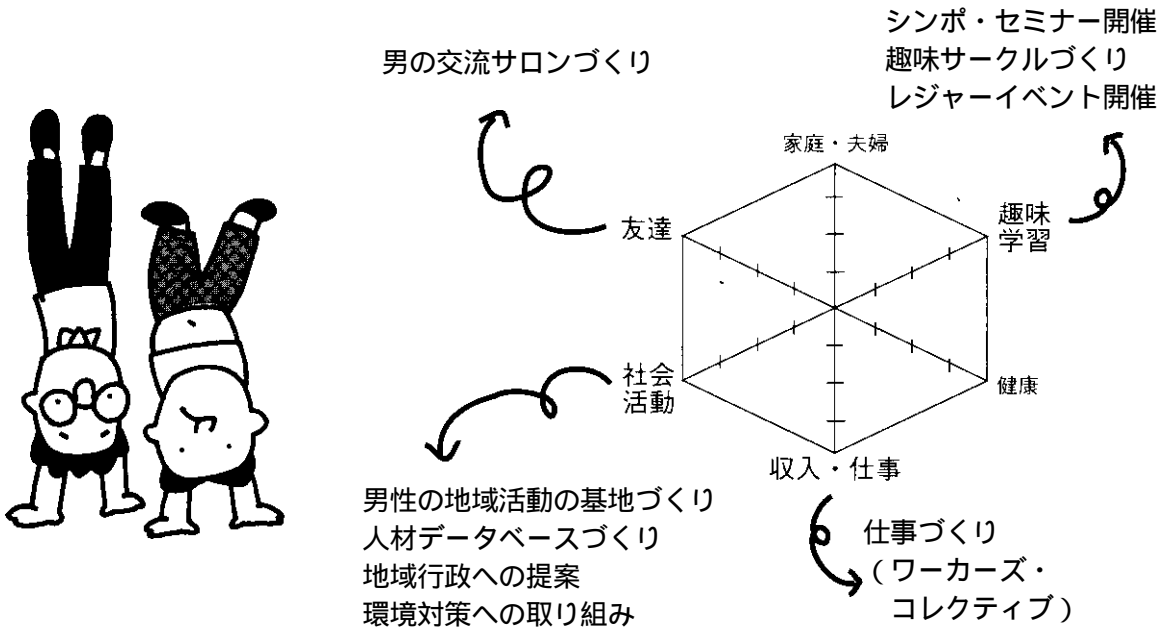
娯楽施設「大正クラブ」が誕生。カラオケバー顔負けの設備を誇り、加えて二卓のマージャン室や浴室もある。宿泊も可能だという。

「飲んでおだをあげ、話をしてこそ本音が出る。ここはどの家も狭い。腹を割って付き合える場所が欲しかった」と、管理組合理事長になって15年の小沢忠二さん。

集会所もあるが「あそこは会議など義理の付き合いをするところ」。



自分たちの生きがいづくりと地域活動の拠点を作ってしまえ！
「じゃおクラブ」の一石数鳥ねらいの作戦



生活クラブ組合員の夫たちの集い
生活クラブ神奈川に、組合員たちの夫による地域活動グループが誕生した。「じゃおクラブ」という。引っ繰り返すと「おやじ」。

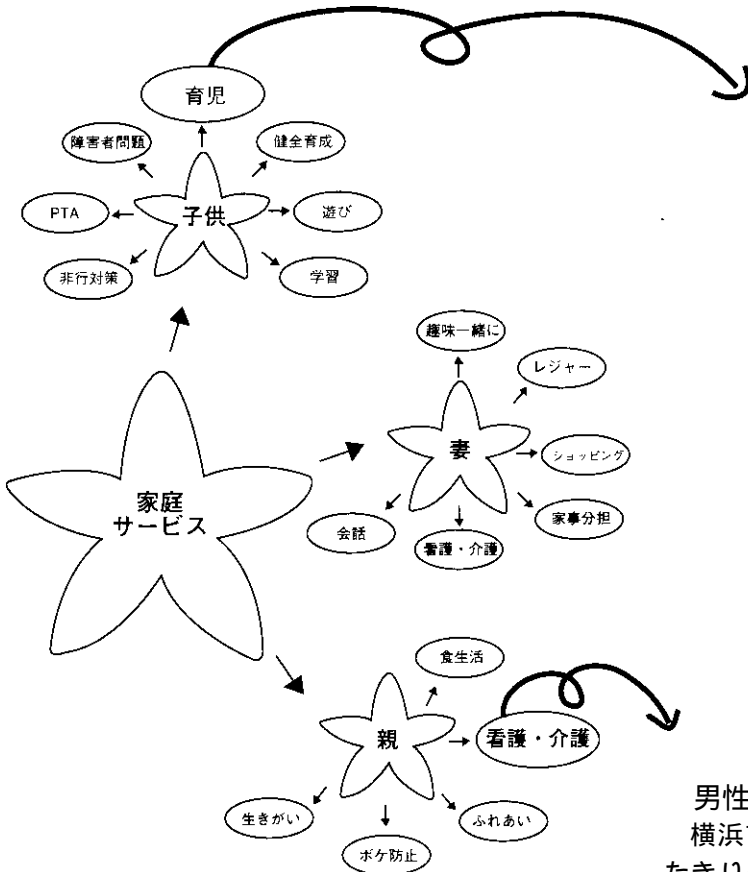
以前、「生き方を変える夫たち」と題して、組合員の家族から五人の夫を選び、座談会を開いたことがある。このとき参加した中から八人が「活力社会プロジェクト」を発足させた。討議を進める中で、男による男のための地域活動の「基地」を作ろうとの話が煮詰まり、90年5月生活クラブ総会で「じゃおクラブ」設立が承認された。

男が地域に帰った時の受け皿作り
自分たちにふさわしい仕事をワーカーズコレクティブ（組合方式の事業体）で進める。興味のあることを学んだり遊んだりできるサークルを作る。地域社会をよくするための活動をする、が三つの柱。とりあえずは、会員が気楽に立ち寄れるサロンや相談室づくりを考えているようだ。これらを、すでに紹介してあるダイアグラムに乗せてみると、上のようなになる。

基本は「男が地域に帰るための枠組みづくり」とリーダーは考えている。それを男たち自身ですすめていくところに、大きな意味がある。

「家庭サービス」をひらけばそれも「活動」になる。

「家庭サービス」といえば、単なる個人的なひとみではないかと考えがちですが、それを他のおやじたちと一緒に取り組んでいけば、これもまた立派な「活動」になります。例えば...



パパも育児参加。教室は大人気
「妻だけに子育ての楽しみを独占させるのはもったいない」と、育児に参加する男性が増えている。

東京・練馬の石神井保健所が実施している、出産を前にした夫婦を対象の「パパの育児教室」には、いつも25人の定員を上回る人気。

この教室の参加者たちが集まった「同窓会」、また同窓会と教室の参加者による体験談の「交流会」も開かれているようだ。

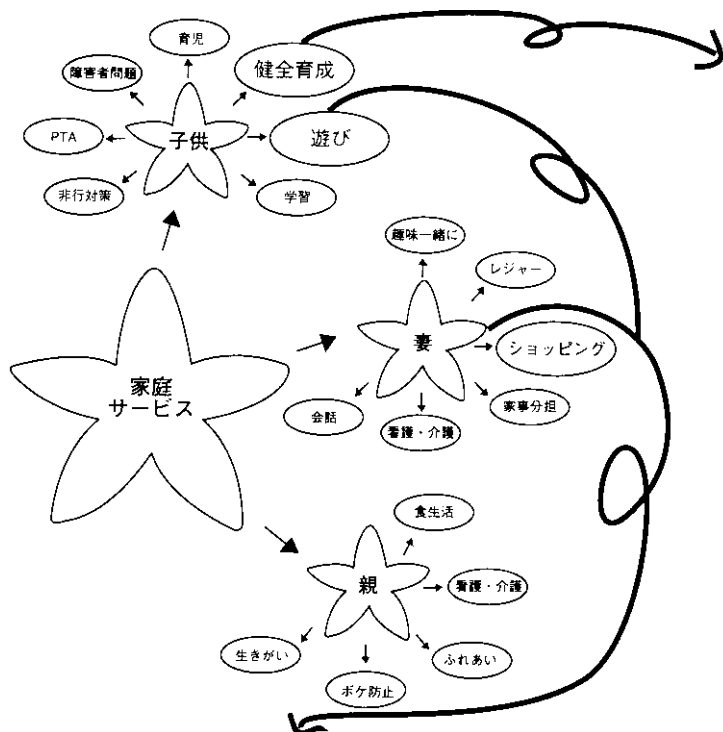
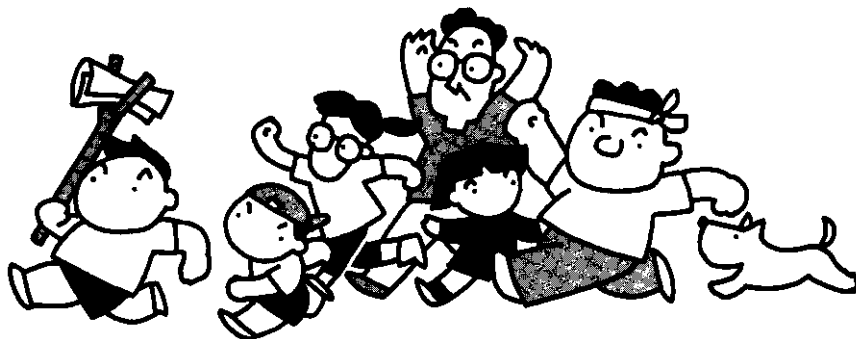
一方日野市の保健所は年3回「両親学級」を開き、夫におふろの入れ方などの実習をしているが、ここも毎回定員の倍の参加者だという。

男性ヘルパー・グループが誕生

横浜市に住む60代の男性たちが寝たきりのお年寄りの食事の世話や入浴の手伝いをする「男性ヘルパーの会」を結成、活動を始めた。

創設メンバーは退職後の第二の人生を有意義に過ごそうと、市のホームヘルプ協会の介護研修に参加した人たち。「老人ホームを慰問した際皆さんの喜ばれる姿を拝見し、本格的に介護法を学ぼうと思い立った」同会では、福祉施設の見学会や情報交換の話し合いを隔月に開くとともに、組織拡大を図っていく。

そういえば企業の介護休暇制度を利用するビジネスマンたちも、こんな組織を作ったらどうか。



ずばり「家庭サービスの会」!

川崎市に家族グループ「ま・いい会」ができたのは一昨年。区の教育問題講座に出ていた女性たちが、講座の合宿に夫を引っ張りだしたのがきっかけ。

毎月の例会のほかに年2回、家族ぐるみで料理や素人芝居を楽しむ合宿を開いている。夫からは「家族サービスの会」ということになる。

「講座の合宿で、自分の子どもをどう思うかと聞かれ、何も答えられなかった。視線を下げなきゃ」と思って始めた「地域で親子が一緒に遊ぶ場」づくり。「これがおもしろくて...」と、おやじ自身が楽しんじゃっている。

町起こしおじさんが子供版づくり
徳島県的那賀川町に子供だけの町おこしグループ「やったろう - 夢くらぶ」がある。中高年組織「やったろう21」のジュニア版として昭和62年、小中学生52人で発足。

産業もなく過疎化に悩む同町の中高年25人が、「とにかく目立つことを」と「やったろう21」を旗揚げ。800メートルの巻き寿司作りや、那賀川の堤防に2.8キロの壁画などで町内を沸かした。

参加していた小・中学生から「僕らだけでもやりたい」の声が出て、弟分の「夢くらぶ」を作らせた。

何をするにも面白くが鉄則。クリーンキャンペーンでは五千個の空き缶で町の巨大地図を作り、役場前に据えた。

老人とのふれあいゲートボールでは、「手加減無用。心してかかれたし」の挑戦状を竹に刺して突き付けた。勝った老人側は、罰ゲームに「わたらの昔話を聞いてくれ」と要求。オリエンテーリングも、班ごとに老人を訪ね歩き、一つ昔話を聞いてくるという趣向にした。

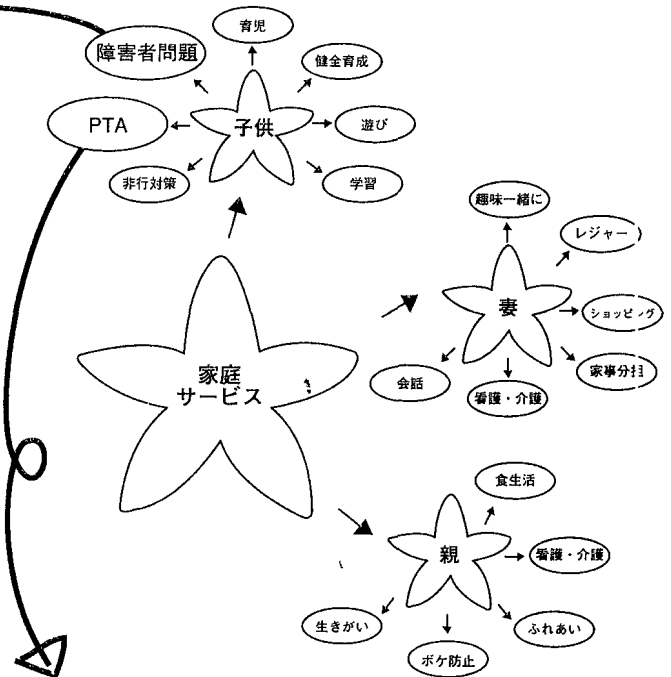
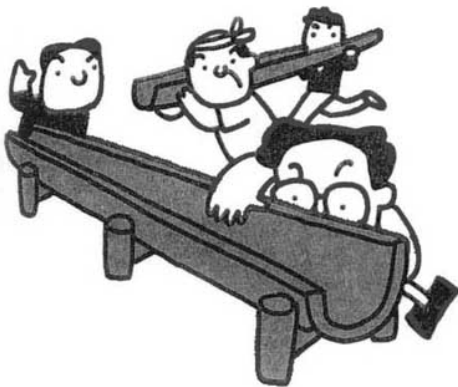
子供ではできない部分を「21」が肩代わりする。オリエンテーリングでは、事故に備えて車を配し、集合地点でご飯を炊いて待つが、おにぎりにするのは子供たちの役目、という具合。「21の人の言うことは聞くが、親の言うことは聞かん」とグチられるほどに両者の呼吸はピッタリだという。

障害児抱えたおやじの会ができた
横須賀市内の障害児を抱えた五人の
親たちが「障害児と健常児の交流をす
ずめる会」（「モモの会」）を結成、
横須賀基督教社会館を会場に自主的に
学童保育を進めている。

この「モモの会」におやじ組織、
「モモ太郎の会」ができた。この種
の組織は大抵お母さんばかりの集まりに
なる。モモの会も同じだった。

しかし「アナタ、うちの子の障害に
どう立ち向かうの？」と問われて何も
答えられないおやじの苦悩をいつまで
もしょっているわけにはいかないと、
ようやく重い腰を上げた。

子供たちのために同館広場で「流し
そうめん」を楽しんだとき、おそらく
親父さんの手がなかったらこの壮大な
セットはとてもできなかつただろう
と、だれもが思った。親父もだんだ
んと、自分たちの出番を心得るよう
になった。



PTAや保育園児の父親の会も

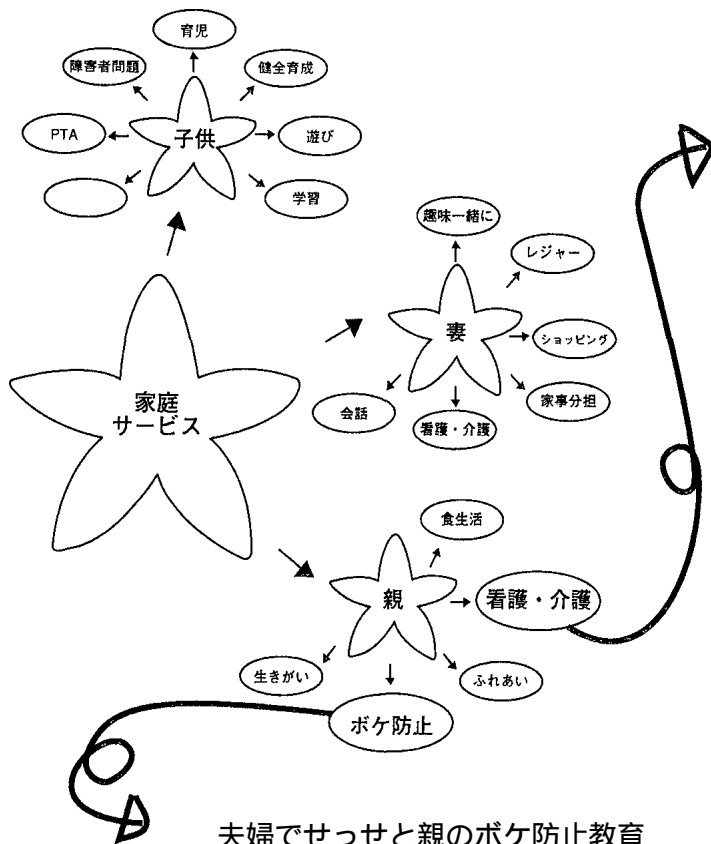
東京・調布市の調布第七中学校に「お
やじの会」ができて、もう十年近くになる。
一時期、学校が荒れたときに集まった
父親たちの「遺産」を受け継ぐように
してこの組織が生まれた。

運動会の早朝には校庭の準備。夏休み
には夜間パトロール。もちつき大会。大
だこあげ。生徒のバドミントン部や野球
部と交流試合もする。おやじが教壇に立
ち、生徒に仕事の経験を語る「職業と人
生を考える講座」がずっと続けられてい
る。

子どもが卒業しても、OBとして会に
出る人が多いという。

おやじの会は中学校ばかりではない。
東京・品川区の「めだか手作り会」は、
学童クラブに通う子どもの父親が中心に
なってできた。世田谷区の「ナオミ保
育園オヤジの会」は文字どおり、保
育園に預けられている父親の会だ。

このグループは、子連れのスキーツア
ーやとん汁会では飽き足らずロックバ
ンド「バッド・ファザーズ」も作ってしま
ったという。



母のためいっそと自宅に託老所
佐賀県北茂安町に住む諸永義治さんは、痴呆老人になった母の姿に心を痛めて、自宅敷地内に託老所を作ってしまった。建設費は三人の姉弟が貯金をはたいて都合した。

毎日、近所の四～五人の老人がやってくる。これを支えるために「青老会を支える会」というボランティア・グループができた。といっても高齢者が多く、実質的な労働力は諸永さん一家だ。「おかげでうちの息子がいろいろ手伝ってくれるようになりました。よい福祉教育ですよ」。

運営費の工面に苦労しているが、部屋を学習塾などに貸しているのでその収入で賄えるようだ。

活動を続けてきた成果といえば、「町当局がこれに刺激を受けて福祉に熱心にかかわってくれるようになった」とことだという。

夫婦でせつせと親のボケ防止教育
神奈川県横浜市の大林幸子さん夫婦が、夫を亡くし自身のボケを心配している母（幸子さんの）のために独自のボケ予防講座を開いている。

母は今まで新聞も読んでいなかった。世の中の基礎的なことは自分で分からなければと、とりあえず読めるところから読んでいくようにと指示。そのために天眼鏡を手渡したのが「講座」の始まり。

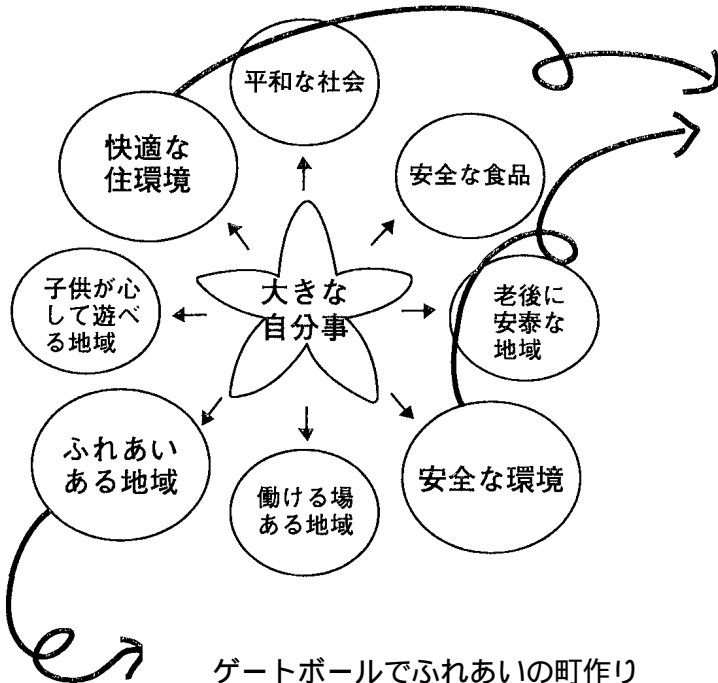
以降も、自分の好きな記事をノートに書き移す、植物図鑑を携帯してご近所フィールドワーク、押し花、俳句、NHKの「今日の料理」を手本に新しい料理にチャレンジと学習内容は増えていく。最近のテーマは母の世代が最も苦手とする人間関係のテクニックのようだ。

夫婦ともに仕事を持ち、子供は作らず、お互いの人生をエンジョイする新しいライフスタイルを実践している二人は、母親の自立教育の一方で自身の老後対策は怠りなした。



「環境」も「平和」もつきつめれば大きな「自分事」だ。

例えば食物の問題ひとつにしても、安全な食物を摂りたいという個人的な願いを適えるために、食品添加物の問題や農薬の問題、農産物輸入の問題にまで関心を広げ、活動を始めている人がたくさんいます。「小さな自分事」のまわりに「大きな自分事」が無限に広がっているのです。



ゲートボールでふれあいの町作り
 神奈川県愛川町の春日台地区。比較的新しい地域で、まだコミュニティ意識が育っていない。そこで、まず「ふれあいのある町」づくりをと地元の子供と老人会との交流ゲートボールが企画された。今では愛川町全体の三世代ゲートボール大会が開かれるまでに。陰で仕掛けているのが地域のお父さんを含めた大人だ。

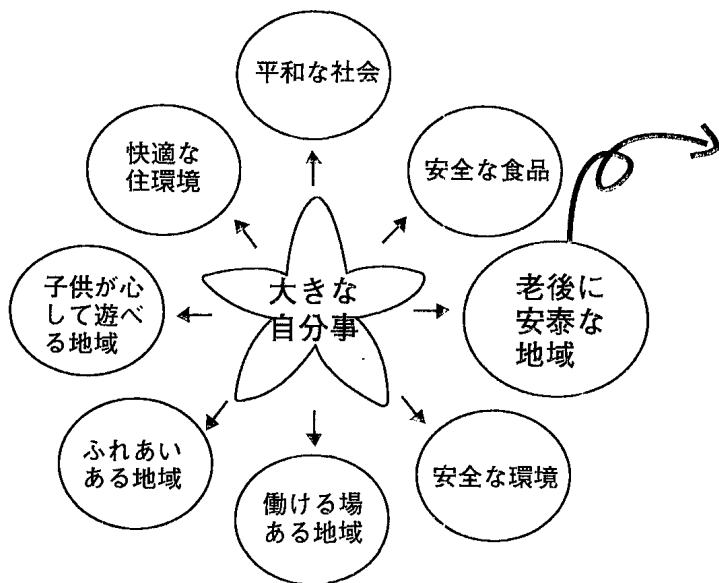
毎日曜に20名ほどの小中学生と老人が合同練習する。その間に「あのおじいちゃん、いいね」「あのコはなかなかかわいいワイ」となって自然にウマが合うペアができ、普段の付き合いに発展する。「これこそわれわれが期待していたこと」と育成会リーダーの亀田肇さん。

公園で稲作やサッカーやっちゃえ十年ほど前、横浜市戸塚区に住む十文字修さんは柏尾川の辺を歩いていて、ぼらの大群に出会った。幼い頃に見て以来のことだ。

昔の戸塚は市街地なのに水田もあり田植えをして遊んだ記憶もある。ぼらを見たときその記憶が甦った。「川はまだ生きている！」この感動で、学生時代に芽生えた環境問題への関心が一挙に膨らんだ。「よし、柏尾をライフワークにしよう」。

活動は「かわら版」の発行からはじまる。柏尾川の再生を訴えたら新聞が取り上げ仲間も集まってきた。手始めにみんなで川を遡って行ったら舞岡谷戸に辿り着く。川はこの谷戸の湧き水からはじまっていた。都市部にありながら水田も雑木林も畑地も残されている。こんな宝を放っておくてはないと「まいおか水と緑の会」を旗揚げした。

発足後は舞岡谷戸展の開催、休耕田を復元しての稲作や植林・雑木林作り、和紙すき、野草てんぷらパーティ、自然教室など、活動はいもづる式に広がる。仲間も160人に。公園に水田があったり地域の人が畑作をしたり炭焼きを楽しむという発想が他地区にも広がっていった。



団地で老後を迎えられる態勢作り
 横浜市磯子区の汐見台団地の自治会は、高齢化社会に備えるための本格的なまちづくりを進めている。

団地内にも高齢化の波は否応なく押し寄せてきており、65歳以上の中の一入暮らしは15%、夫婦のみは40%にもものぼる。

現在の住居の狭さや、いざというときの生活を支える体制が全く不備な状況では本格的な高齢社会に対応できないと、自治会内に特別委員会を作り、既に構想をまとめている。

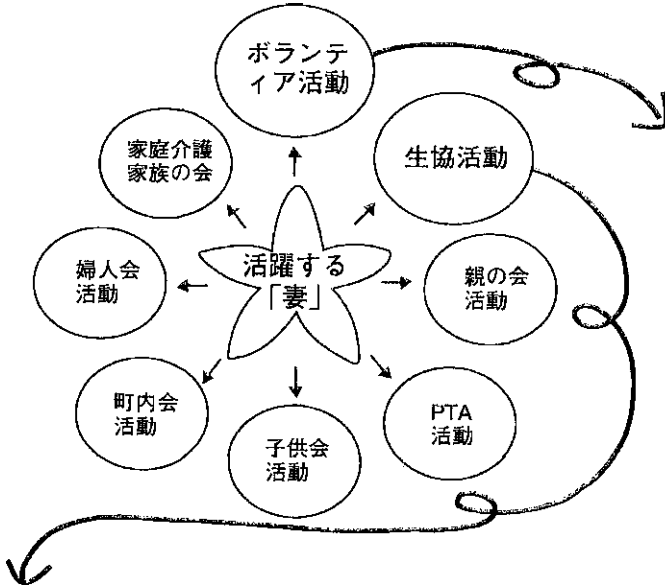
これまで自治会として健康システムやホームサービスクラブ（会員制の有償・家事等のサービス組織）を作ってきているが、「構想」はそれにとどまらず、団地住民の保健・医療・福祉需要を包括的に支援するケアサービス・システムが必要としているのが特徴だ。

この構想に沿って今、老人に住みやすい安全な住居の整備、地域に開かれた病院づくり、日常生活の包括的な支援のための新センターづくり（そこで在宅ケアなどをすすめる）などをすすめていっている。



「ボランティア妻」の後方支援だって立派な活動

ボランティアのリーダーとして活躍する妻を陰から支えている夫 - がいるものです。妻のリード次第というところもありますが、これだって立派な「活動」と見るべきです。



みんなそれなりにやっているはず
すでに紹介した、生活クラブの組合員の夫によって構成される「じゃおクラブ」。ところが、別にこのクラブに入らなくとも、夫たちは普通の生活の中で、あれこれと妻のための「後方支援」をしていた。

毎日、クラブでの活動を逐一夫に報告していると、それに関連した情報や資料を会社から持ち帰ってくれたりする。代理人を市議会に送り出す運動をしているとき、病気の妻に代わって応援演説まで買って出て、妻を感激させたなどといったエピソードもある。

私が活躍できるのも夫のおかげ...
ある団体が開催したシニア・ボランティアの交流集会で、一人の主婦がこんな質問を投げかけた。

「私がこうして外で活躍できるのも、主人がしっかりと家を守ってくれているからなんです。私が出掛けるときは、主人が炊事や洗濯をしてくれます。そういうのだって活動だと思んですが...」

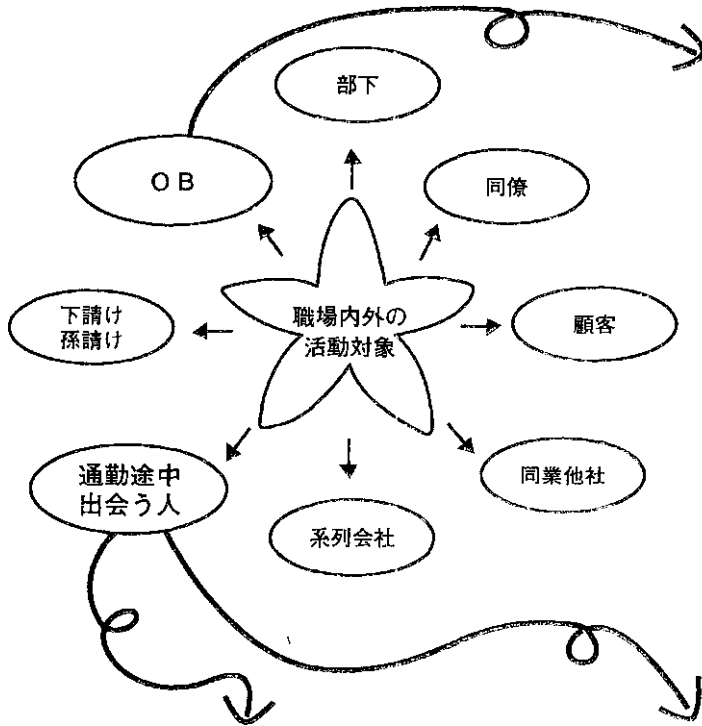
講師はこう答えた。「おっしゃるとおり立派な活動じゃないですか。それを後方支援ボランティアというんですよ」。喜んだ主婦、「家へ帰って主人にも伝えてあげますワ」。

数ヵ月後、講師はある講座でまたあの主婦が顔を見せているのに気付いた。「主人に後方支援ボランティアのことを伝えたら、大変喜びまして、今まで以上に炊事洗濯をしてくれるようになりました」と、目を輝かしていた。

これも紹介済みだが、障害児を抱えた親の会「モモの会」に「モモ太郎の会」ができたという話。この親父たちの組織も、いわば後方支援活動であった。必要なときに必要な知恵を出したり、力仕事を一手に引き受けるなど、彼らなりに、後方支援部隊にふさわしい活動を模索しているようだ。

職場の周辺でこれだけの活動メニュー

ボランティア活動というと、地域のボランティアセンターへ行かなければならないと思っている人もいますが、とんでもない！ むろんボランティアセンターへ行けば、たしかにあなたにふさわしい活動テーマを提供してくれるでしょうが、やはり自分に適した活動は自身で探し出すのがいちばんいいはず。そのとき、あなたの職場を中心に、その周辺から対象を探すのが最も無理がなくまた見つかりやすいでしょう。



一人暮らしや寝たきりのOBを訪問
沖電気の労働組合では、退職者の会と連帯して友愛訪問活動をスタートさせている。

これは、退職後、ひとり暮らしや寝たきりとなったOB宅にかつての同僚や先輩が訪ねて相談相手になるというもの。一方の会社側が緊急通報システムの設置、介護用品代の補助、介護人の派遣を進めており、労使一体でOB支援をやっている。

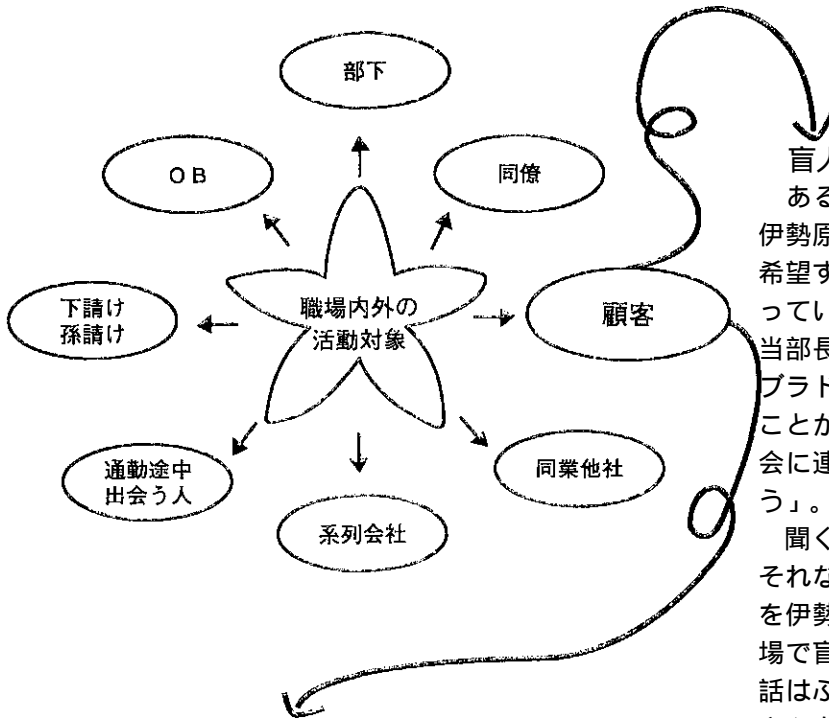
福祉などというと、どこか遠いところにある活動だと思いがちだが、意外にも足元にちゃんと正真正銘の福祉活動のテーマがあったわけだ。

通勤途中で車椅子利用の点検活動
電気労連では、国際障害者年に呼応して、各組合員が毎日通っているJR等の駅周辺が車椅子利用可能かどうか等の点検活動をするという一大運動を展開した。組合では全組合員の点検結果を集大成して、自治体に改善を勧告、相当の成果を上げたという。

組合の持ち味である人海戦術を駆使して、しかもそれぞれの組合員が通勤する途中にできるという、ユニークな活動のあり方が、大きな成果を生んだ。

郵便配達時に一人暮らし老人声掛け
全逓信労働組合は郵便配達時に一人暮らしの老人に声をかける「ふれあい郵便」を実施することになった。

これまでは過疎地中心の活動で、地方の労働組合が自主的に始めたものだが、郵政省の予算措置も得られたため、全逓の活動として位置づけることにしたという。



盲人客の声を聞き届けることからある時、忠実屋の店舗の1つ「ベネ伊勢原店」にラブラドルという犬を希望する客が来た。同店は大型犬を扱っていなかったため、本部の専門店担当部長・斯波範雄氏へ話が届いた。ラブラドルは盲導犬として活用されることが多い。斯波さんが日本盲導犬協会に連絡をとったら「お分けしましょう」。

聞くと同協会は財政が苦しいという。それなら盲導犬育成基金として募金箱を伊勢原店に置こう、また店舗の駐車場で盲導犬の訓練の実演をしようと、話はふくらんだ。気がついたら、斯波さん自身も休日に同協会でボランティアをしていた。

その中で「私たちがスーパーでショッピングを楽しんでみたい」という盲女性の声を耳にした。スーパーにはペットを店内に持ちこんではいけない規則がある。

彼は、盲導犬を使って店内で買物実験を行ない、問題のないことを社内に理解させたり、お客へのPRをしたり、受入れ側の各店舗を説得したりと大奮闘。そのかいあって、ようやく盲女性の願いは実現した。

その後も、従業員募金で集まったお金で子犬を寄贈、忠実屋の子会社で作る豆腐やめん類などを施設へ無料提供、盲導犬育成商品としてドッグフードを売り出すなど、活動はまだまだ発展している。

従業員としての日々の業務の中に「活動」のテーマがふんだんにあった、というわけだ。

医院が障害者外来。手話も勉強
横須賀市大滝町にある江沢医院。耳鼻咽喉科が専門だが、昭和61年「障害者外来」を設けた。

たまたま一般患者にまじって聾者や脳性マヒの患者が来ていた。障害のために症状をうまく訴えることができない。といって彼らだけに時間をかけるにも限度がある。そこで彼ら向けに特別の診療日を設けた。

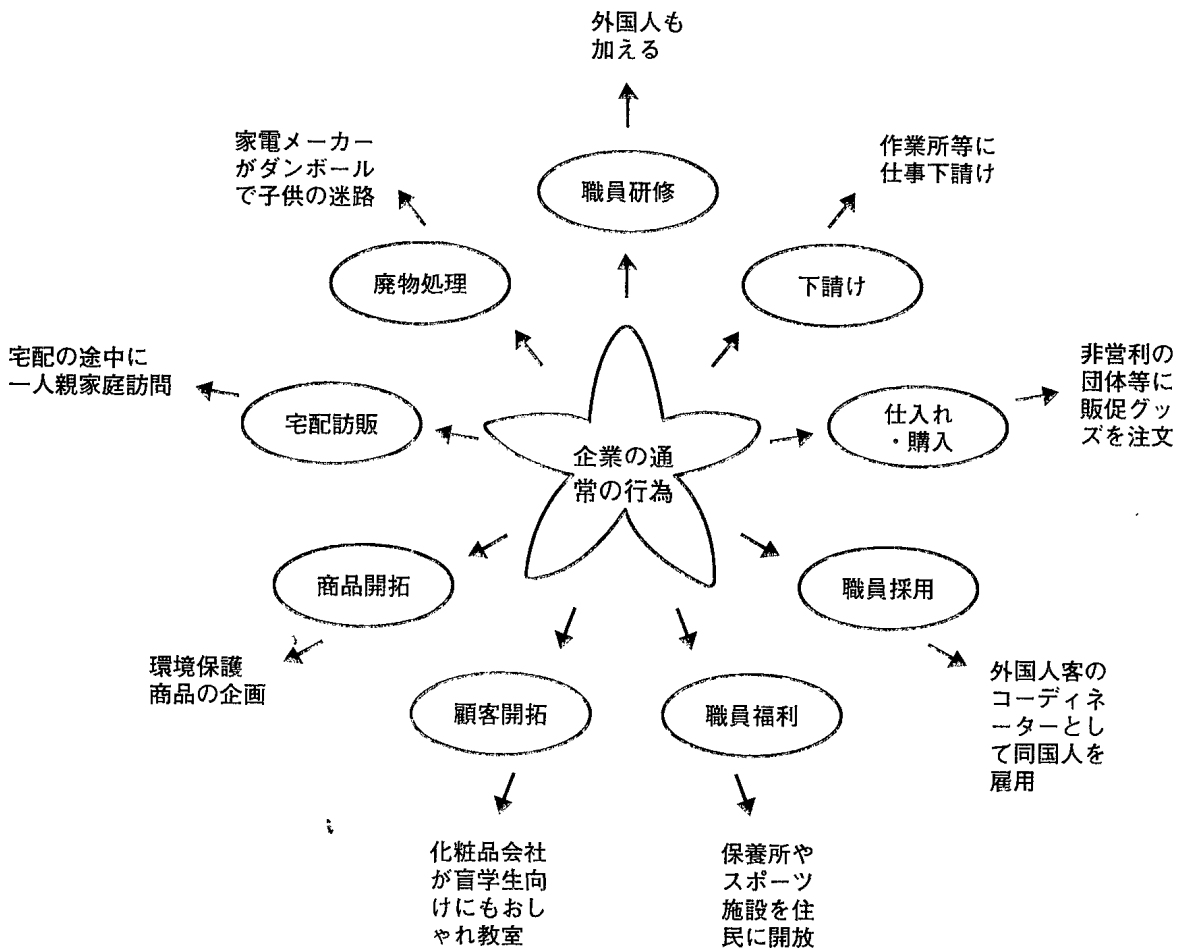
障害者の診察はやっかいだ。知恵遅れの子でどうしても口を開けたがらない。そんな子のために氏はいろいろ工夫を凝らしてもいる。

また車椅子の患者のために鉄工所に相談して特別製のスロープをつけた。聾者もやってくるからと診察室を会場に手話勉強会を開いている。聾者の患者との交信のため特別のミニファックスも設置した。

自分の持ち場でたまたま障害者との接点があった。その接点を生かしてできることは何でもやる。その見本を氏は示してくれている。

「企業」という「ボランティア」

ボランティアというと、私達がイメージするのは、特定の「個人」でしょうが、じつはその他にも「企業」という「ボランティア」がいることを忘れてはなりません。私達は個人として活動するだけでなく、会社の一従業員としてその企業が取り組む社会貢献活動を企画ないしは参画することができるのです。意外にも、お父さんにとって、最も取り組みやすいのがこの方法ではないかと思われます。例えば自分の勤めているスーパーでチャリティ・イベントを主催することになれば、あなたは催事部長として、それに全面的にかかわることができるではありませんか。



「モチはモチ屋」の腕を生かせば百人力

それぞれの企業は、特別の「モチ屋」の腕を持っています。その腕を発揮することによって企業利益を得ているはずですが、そのモチ屋の腕を発揮することではじめて、企業は企業なりの役割を果たしたと言えるでしょう。

ではその「モチ屋」の腕とは、どんなものなのか。例えば不動産屋は、土地に関する知識を持っています。売り地も持っています。駅前という、便利な場所に店を構えています。それらの腕をこそ発揮しなければなりません。最近では外国人がなかなかアパートに入れないと聞きます（大家さんが嫌う）。そこで外国人も受け入れるアパートを見つけてあげればこれも立派な社会貢献。売り地を地域のイベント会場に無償で開放している不動産屋もいます。土地を福祉施設を建てるために提供したという凄い不動産屋もいました。

さてあなたの勤務している会社の「モチ屋」の腕は何でしょうか。



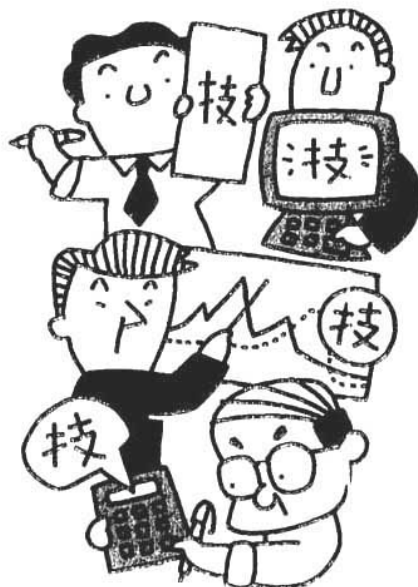
1	放送局テレビラジオ局	ニュースや特集番組で環境問題を取り上げる。
2	新聞社・雑誌社	福祉関係のニュースや特集記事を取り上げる。
3	広告代理店	企業の広告に公共広告を相乗りさせる。
4	コピーライター	市民のイベントのコピーを担当。
5	映画館・ショールーム	地球環境保護関連のPRフィルムを幕間に放映。
6	映画製作会社・映画監督	ボランティア関連映画を製作またはアドバイス。
7	脚本家・音楽家・作家	平和をテーマとした演劇・音楽・小説を作る。
8	イラストレーター	福祉広報のイラストを担当。
9	JRその他の交通機関	公共心の啓発ポスターを駅や車内に貼付。
10	イベント請負い業	町起こしイベントにアドバイス。
11	百貨店・スーパーの宣伝部	自社の広報媒体に福祉広報を相乗りさせる。
12	企業の社内報・広報部	社内広報や対外広報に地域問題をまぜる。



サラリーマンは特技がないようできて、じつはあった！

奈良県三郷町に一昨年誕生した障害者の作業所「ちいろば園」。理事長は古館普さん、大阪ガスエネルギー・文化研究所副所長で、同社の各種の社会貢献活動にも深くかかわっています。

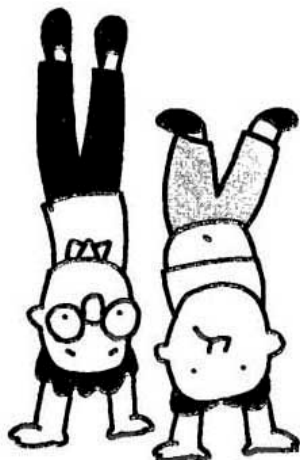
作業所を作るという運動は五年前、隣接する幼稚園の若い先生たちの間から起こりました。同園に在籍した障害児たちが卒園後は小中学校や養護学校へ行くが、その先の行き場がない。古館さんが、幼稚園の経営母体であるキリスト教会の信者だったため、この計画に力を貸すことになったのです。



呼び掛けに十数人の設立メンバーが集まりました。その中に三人のサラリーマンがいました。商社の経理マンのAさんは募金者のリストを作り、一円まで金銭管理が出来るようコンピュータソフトも作る。施設を運営するために毎月どれくらい費用が必要か収支計画も練る。薬品会社の主任研究員のBさんは、建物を担当。設計図を何度も書いたうえで、プレハブに決定。大手企業の総務担当のCさんは園の名前を公募しようと言い、運動の幅を広げ、盛り上げに貢献。古館さんは全体のまとめ役でPRや募金のための文章づくりを担当。

運動には危険がつきものですが、それを乗り越えられたのは「優れたビジネスマンのヨミや決断力が発揮されたから」と関係者は言っています。

そうなのです。サラリーマンは、特別な技術がないと思っているようですがじつはそうでもないのです。あなたが会社で日々発揮している事務能力や企画力は、地域活動をしているグループにとって、それこそ「よだれが出るほど」ほしい資源なのです。その「隠れた能力」を効率的に生かすために、なんらかのシステムが必要かもしれません。

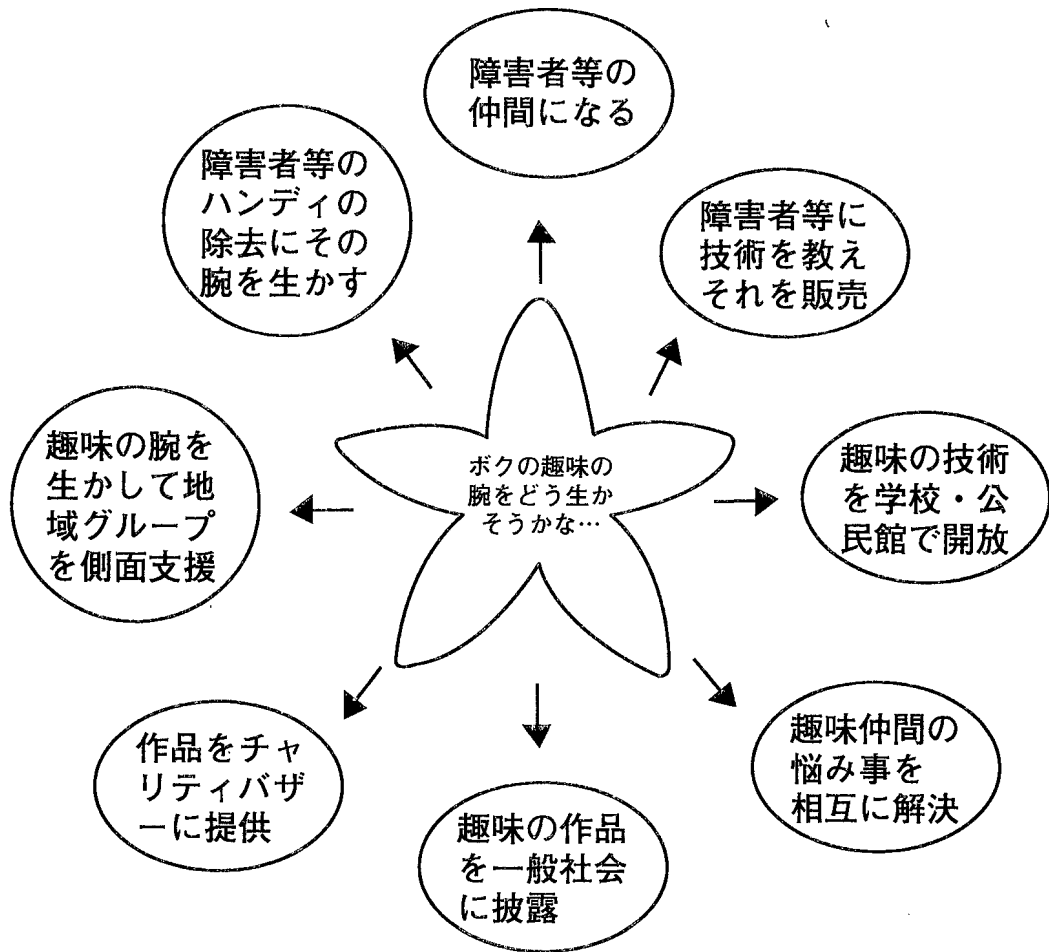


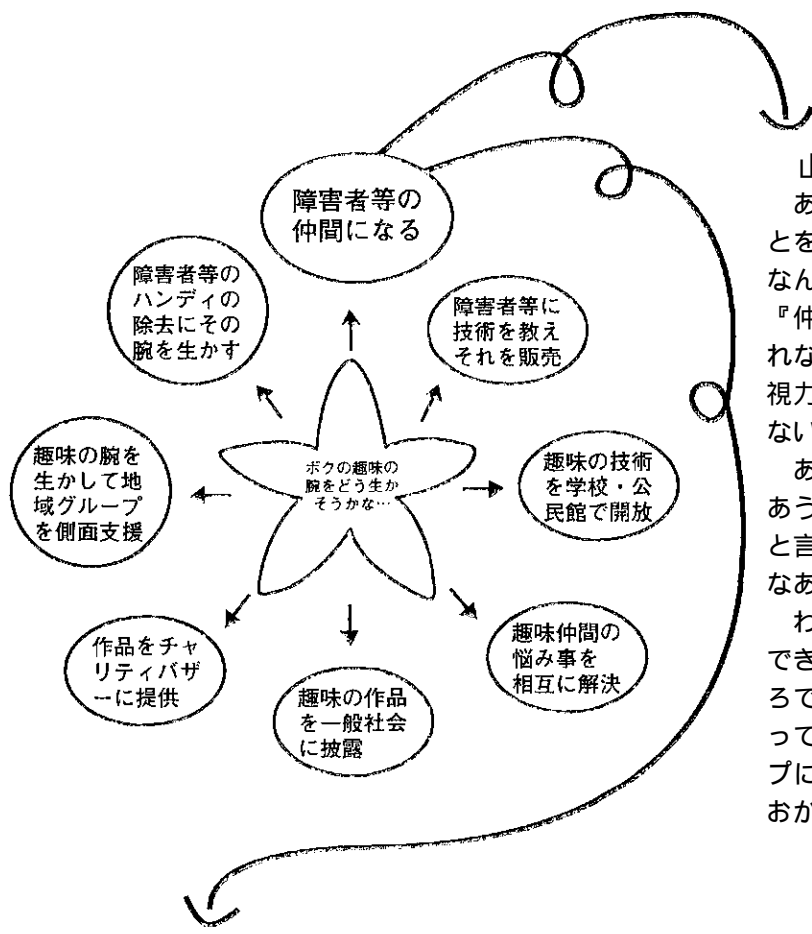
「趣味をひらけ」は、さまざまなボランティア・チャンス

地域で「身一つ」でボランティア活動に参加するのもいいでしょうが、お互いに何らかの趣味を持っているでしょう、それを生かして活動する方が、それだけ役に立つはずですし、それがまた自身にも返ってわけですから、一石二鳥という意味で、ぜひおすすめしたい手法です。

問題はその趣味の生かし方です。ここに八つほど紹介しておきましたので、自分の場合はどれにあてはまるのか、点検してみてください。

自分にはたいした趣味はないという人もいるでしょう。しかし、例えば運転ぐらいはできるでしょう。それがそのまま生きる場合もあるのです。独り暮らし老人の外出や病弱老人の通院に運転技術を開放している人もいますし、車椅子ごと運べる「ハンディキャブ」の運転ボランティアをしている人もいます。ちなみに、地域の活動グループの最大の悩みは、この「足が確保できないこと」だといいます。「たかが運転の技術」と言うなかれ！





山岳会に入れて、と視力障害者あるとき全盲のGさんからこんなことを言われた。「ボクは山登りが好きなんだけど、それじゃと山岳クラブに『仲間に入れて』と言っても入れてくれない。だからボクらは、いつも同じ視力障害の仲間たちと行動せざるをえない」

あなたたちには別に「障害者とふれあう」イベントを用意していますよ、と言われる。こういうのはイヤなんだなあとGさんは顔を歪めた。

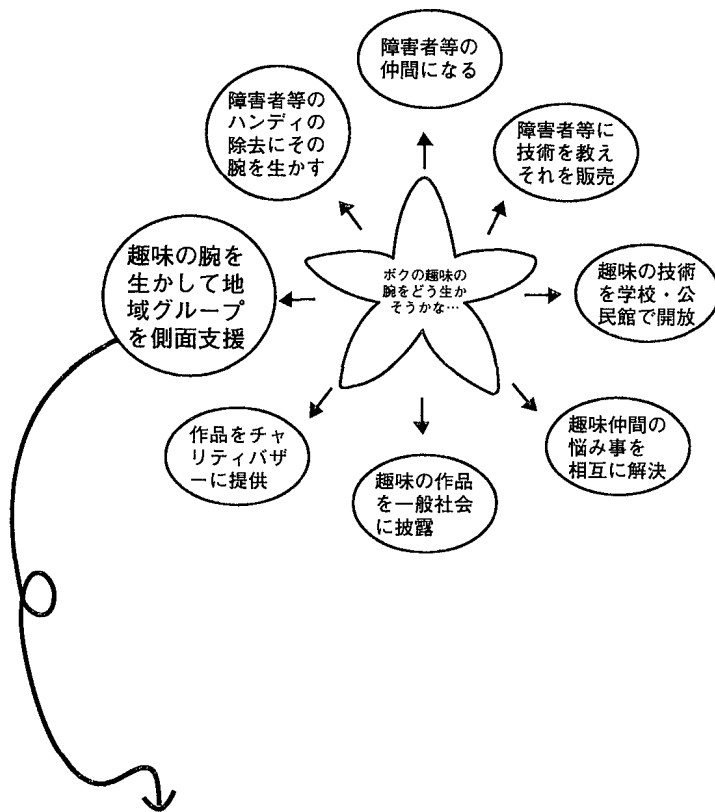
われわれは普段、人のためになにができないかと考えている。身近なところでできることがあればなおいいと思っている。ところが自分たちのグループに障害者を加えることは拒否する。おかしいことである。

青年団が精薄青年を正式会員に
ある町の青年団が毎年2回ほど地元の精薄者通勤寮に慰問に行っていた。何回か行っているうちに物足りなくなった。もっと充実した活動の仕方はないものかと考え、到達した結論は、彼等を自分たちの会員に加えることだった。

奇妙にもこの処置をとったら、今までの「慰問」という活動が消えてしまった。その代わり通勤寮の青年には素晴らしい日々が始まった。寮の指導員が「彼等に予定ができた」と喜んでいた。

今まではただ勤め先と寮の往復だったが、会員になってからは「月日、東京の劇団を招いての公演のポスター貼り」「月日、喫茶店で打ち合せ」といった予定が手帳に書き込まれるようになった。それが人間の「生活」というものなのだ。

要するに「入れて」くれればいいのか、あなたのグループに。



趣味のビデオでこれだけの活動が
 実年男性たちの「ふくい映研友の会」
 (福井市)は、ビデオ技術を生かして福
 祉機関やボランティアグループの広報活
 動に一役買っている。

昭和55年、ハミリヤビデオの愛好者
 12名で結成。撮影会を開いて作品を批
 評し合っていた。

最近、撮影対象に事欠くようになった。
 たまたま福井市がボランティア活動推進
 モデル都市に指定されたと聞き「われわ
 れ、福祉もやらかなアカン」と発奮。新し
 い撮影素材としての魅力もある。昨年、
 ボランティアセンターに会くのみで登録
 した。

まず依頼されたのはボランティアの活

動紹介ビデオの編集。各グループから
 持ち込まれたテープを見て、「素人は
 ズームやターンを使いすぎる。ここは
 いいシーンだなと思っても、すぐ画面
 を動かしてしまう」。

この苦勞を教訓に、今年の一ヶ月ボラ
 ンティアのリーダー40名を集めてビ
 デオ技術の講習会を開いた。

障害者と健常者が協力して演劇活動
 をしているグループ「さくらがさい
 た」からも、自分の演技を振り返って
 みたいと撮影依頼。

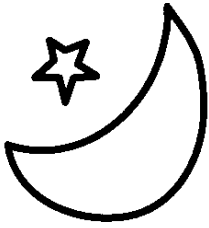
その他、介護教習ビデオや福祉機関
 の紹介ビデオなども手懸け、大変な売
 れっ子ぶりだ。

第2章

私の豊かさをいばむ 「障害物」の除去作業

ついでに老後対策も。



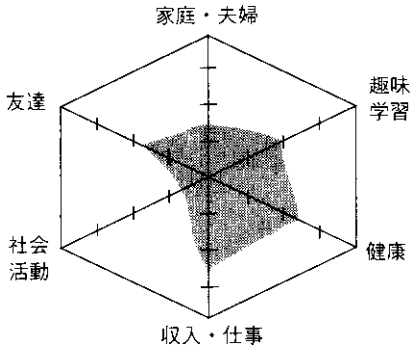


1. ころざし高ければ「障害物」多し

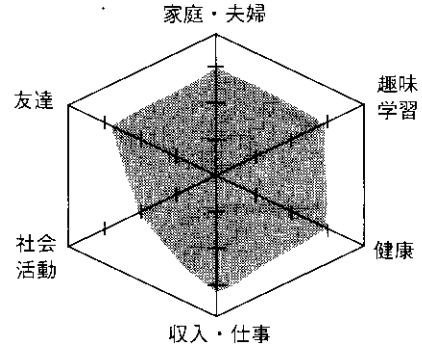
人生設計の要諦は自分に高い要求を持つこと

これから人生設計をしようとする場合に大切なのは、今の自分に満足せず、もっと高い要求を自分に課することでしょう。現状に満足してしまえば、人生はいつも「まあまあ」となってしまう、特別なにかをしようという意欲が出てきません。この「自分に高い要求を持つ」という仕事が意外に難題なのです。

欲の高い人の自己評価



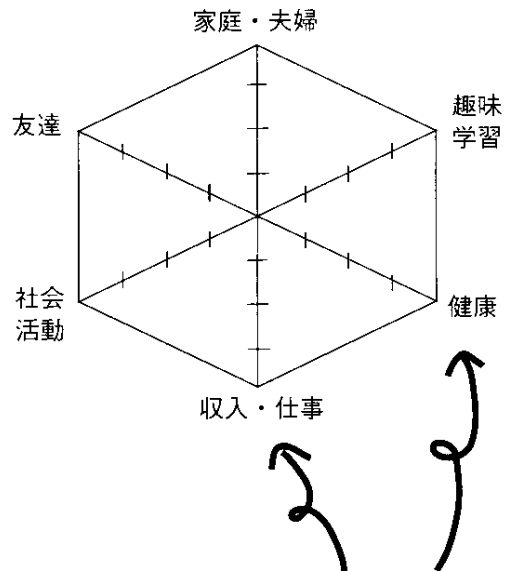
欲のない人の自己評価



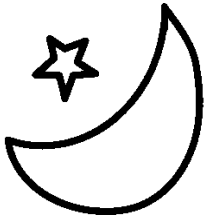
日本人にはライフデザインの発想がない

そもそも私たち日本人にはこのライフデザインという発想がないのです。人生は「明日何が自分に起きるかわからないところがいいんだ」と思っています。いわば「出たところ勝負人生」というところでしょうか。

私たちにとって人生設計とは、せいぜい「生活設計」のことで、ダイアグラムの中の収入と健康対策ぐらいだと、だれもが考えています。自分の人生は自分で作っていくのだという創造的人生観を育てなければ、何の行動も起きてきません。



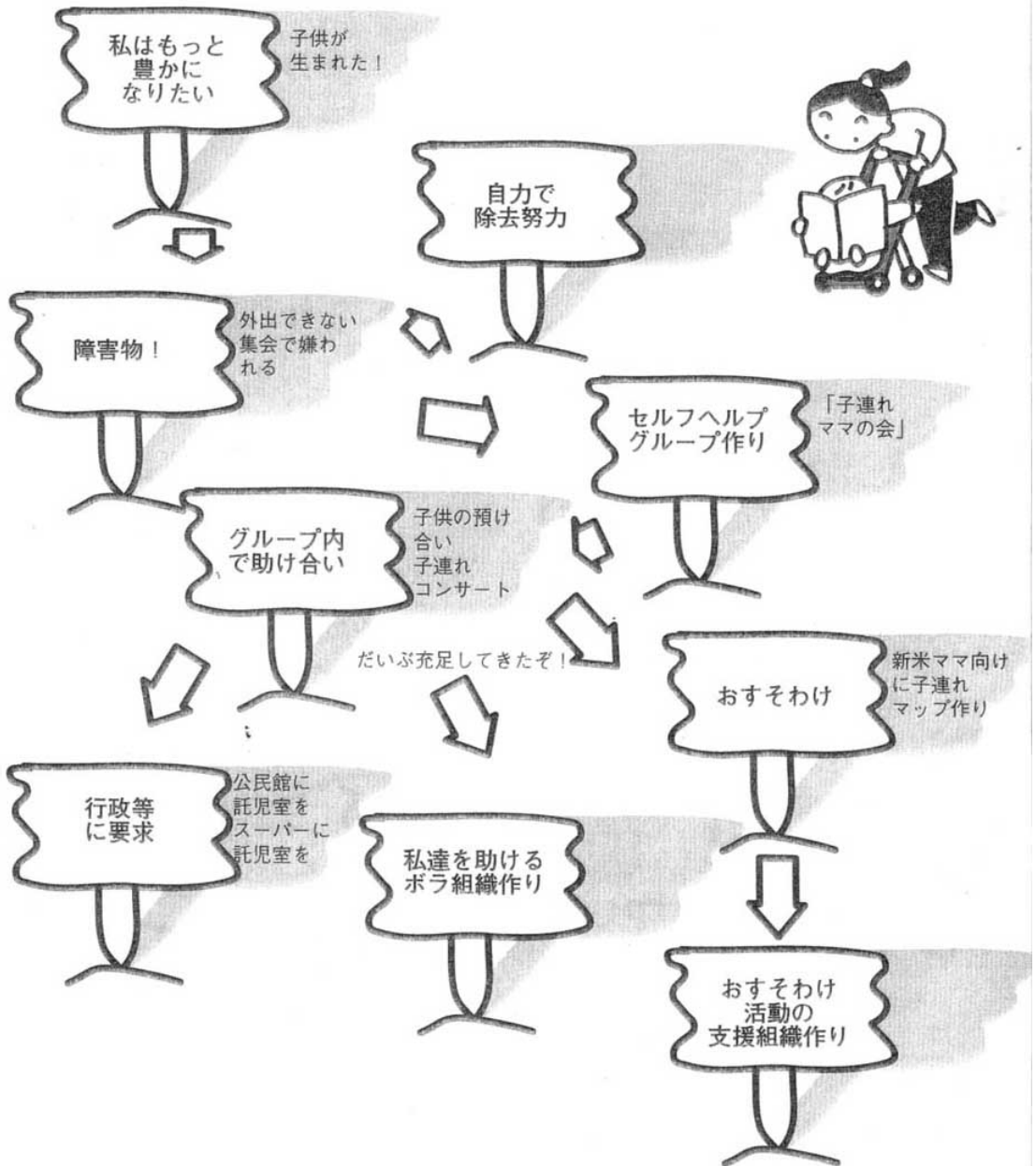
「生活設計」とは、せいぜいこの二つのこと



2子連れママの欲深かな豊かさを作戦に学べ

人生設計の要諦は自分に高い要求を持つこと

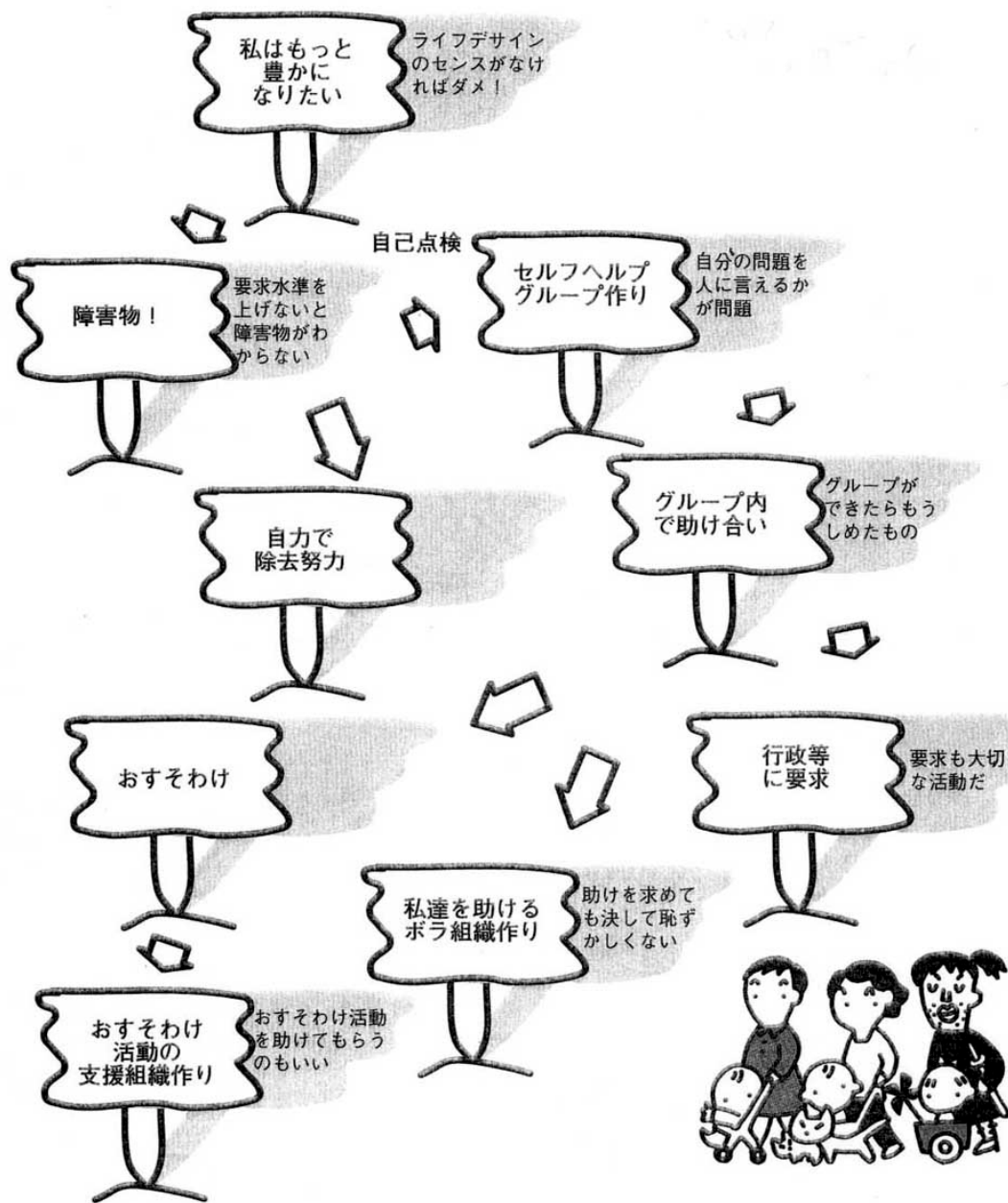
最近の若い母親たちは、子連れであろうと、積極的に社会進出して、豊かな生活を獲得しようとしています。その欲深さに男性諸君ももっと学ぶべきかもしれません。彼女等の行動はたいてい次のような経過を辿っているようです。

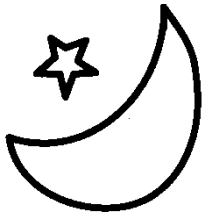


自分の「問題」を他人に言えるか、「助けて！」と言えるか

一見、たいしたことがないように見えますが、このルートをしっかりとするには、いくつかの難題が待ち構えているのです。例えば、「もっと豊かになりたい」と思うには、自分に対して高い要求を持たねばならないし、また自分の人生を「創る」、つまりライフデザインの発想がなければいけません。

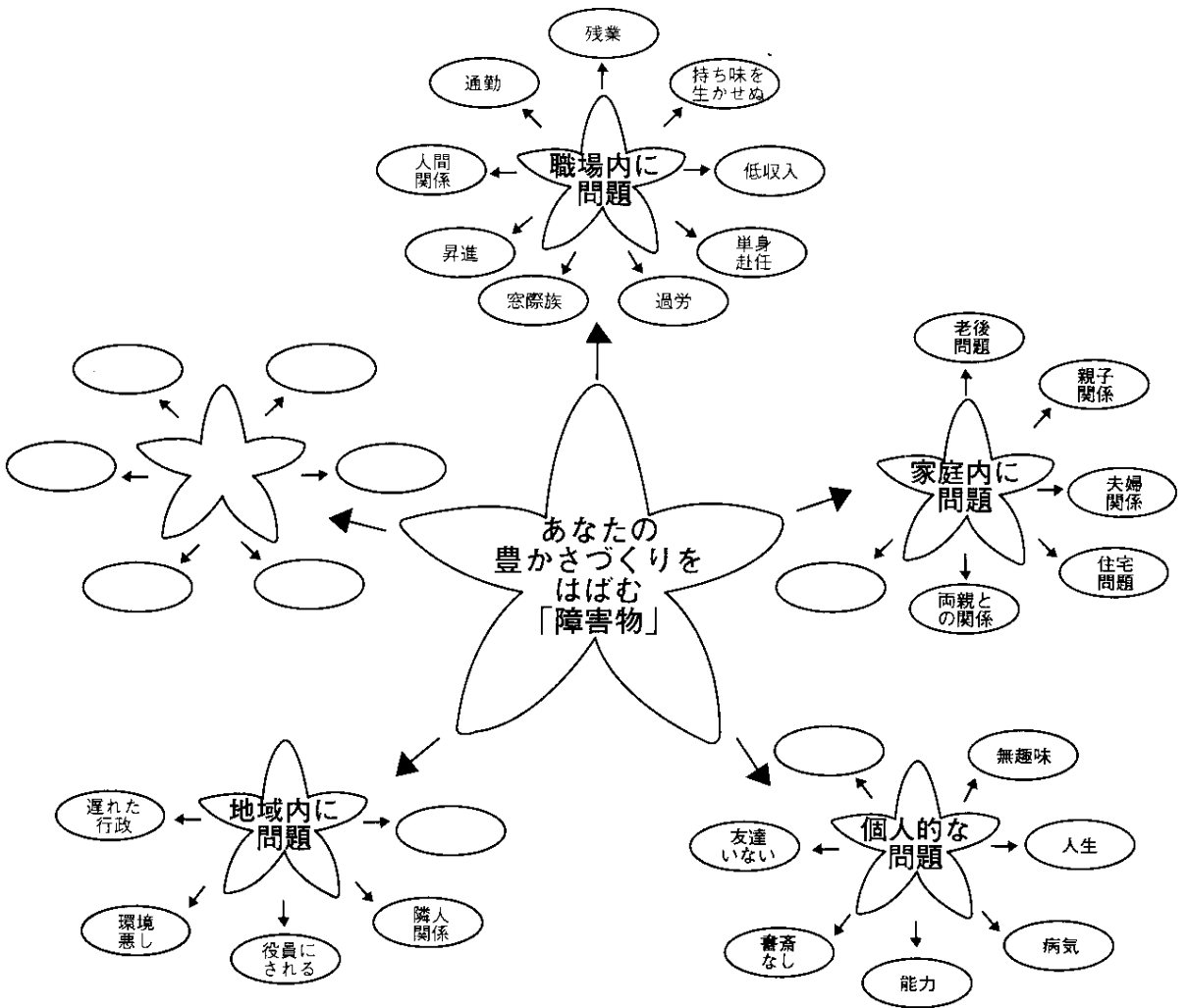
またそこで生じた「障害物」つまり「問題」を認識し、それを他人にも言えるかどうか、それができねばグループ作りは無理でしょう。また、その問題を解決するために他人に「助けて！」と言えるかどうか。この二つの課題を乗り越えれば、あとはもう大丈夫です。

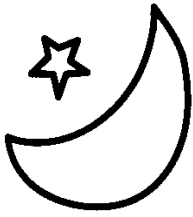




3 あなたの豊かさをはばむ障害物を総点検

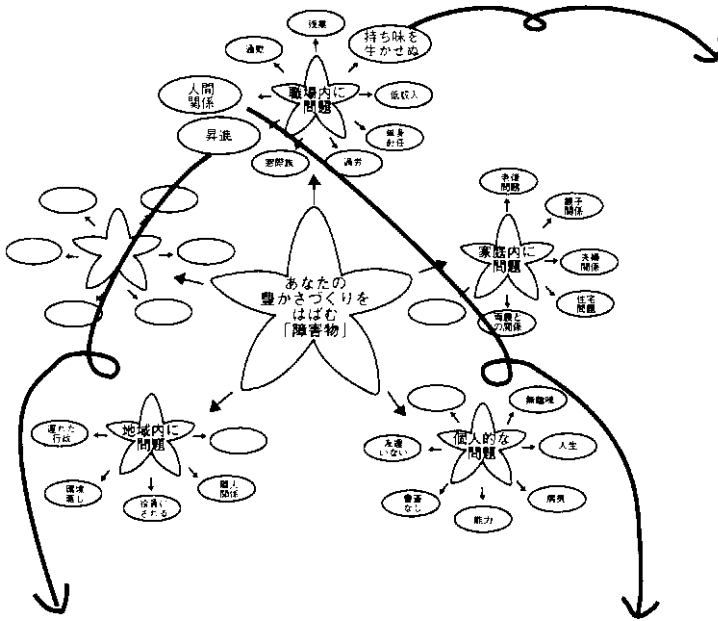
さて、いまあなた自身が豊かになるために障害物となっているものを、このさい総点検してみたいかがでしょうか。個人的な問題から、家庭の問題、職場の問題、住んでいる地域社会の問題などに分けて、一応事例を示してありますが、あなたの場合はどうでしょう。





4 それぞれの障害物をどう除去していくか

前項の図で自身、思い当たる項目について、それをどのように除去していくのか—いくつかの取り組み事例を紹介してみましょう。これをヒントにあなた自身の作戦を立ててみてください。あとでも触れますが、じつはこれも「活動」の一つなのです。自身の問題から始まっても、やがては同じ問題を抱えた人との共同作業に発展するし、もっと地域全体の活動にまで広がっていくに決まっているからです。



テニス好きがテニスで社内起業
学生時代テニスで活躍したAさんはあるインクメーカーに就職。退社後のテニスが唯一の楽しみだ。それにしても、アフター5をめざして毎日を生きているというのも、あまり幸せとはいえない。

そこで会社側は、テニスで何か新しい事業を起こせないか考えると彼に指示。結局思いついたのがテニススクールだった。

彼はいま、その新会社の社長におさまっている。毎日自分の好きなテニスをしながら暮らしている。めでたしめでたし。

「人間動物園」で、裸の付き合い

京都市北区に「ケイズ - 人間動物園」がある（園長・今西慧氏）。

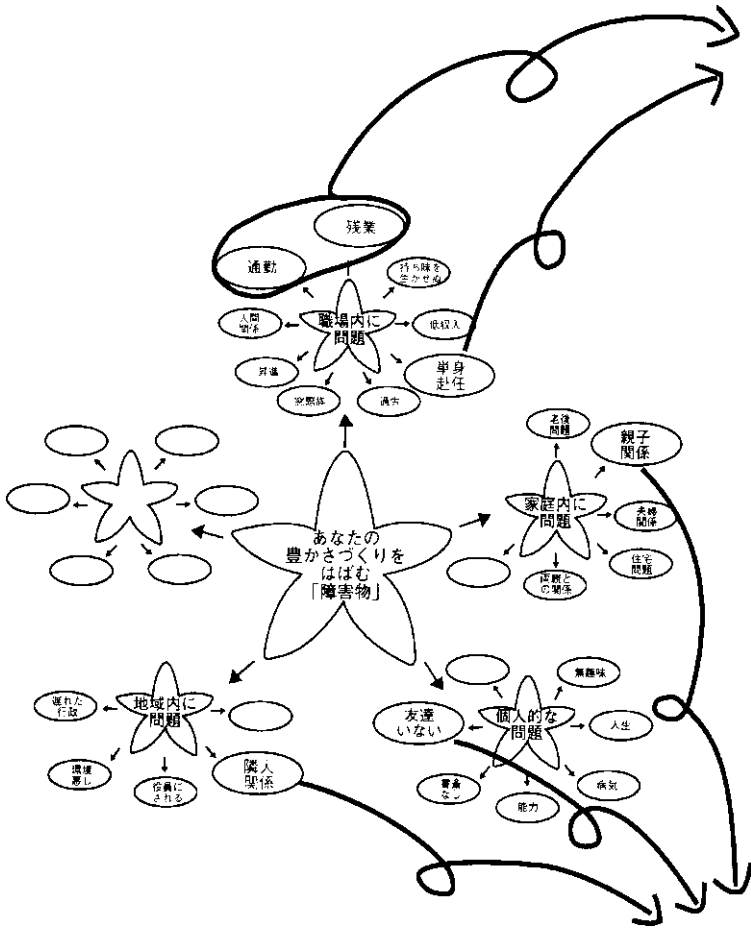
来園者は動物名で登録。世間の肩書きや地位を外し、だれでも気軽に語り合えるフリースペースという感じ。美術家、学者、タレントなど多彩なメンバーがそろう。

登録された動物名は、ゴキブリから架空の怪獣まで約800種類。開園は3ヵ月に2度ほどだが、その間「動物」は当初の300人から今や5600人に膨れ上がっているというから、人気のほどがわかる。

「社外勉強会」で交流広げよう！

このごろ社外勉強会が花盛り。異業種で働く人たちとの交流を通じて教養を養い、幅広い人脈をつくり、趣味のレパートリーを広げるのが目的で、今や全国に250は下らないといわれる。全国組織「知恵の輪」もできている。

「月に一度でも日常をリフレッシュしたら？」のキャッチフレーズが使われているように、企業戦士と言われ、ただ馬車馬のように働き続けそのあげくヒサンな老後を迎える男たちの自己反省への一つの動き。



単身赴任拒否や五時に帰せ！

運動

最近、「企業戦士」から抜け出ようと頑張る男性も出てきた。

会社から単身赴任を命じられても「それでは家庭が破壊される」と拒否する勇者。妻と一緒に「単身赴任拒否運動」に取り組む人も。

単身赴任どころか「夫を午後五時に帰せ！」運動を始めた主婦たちもいる。これからは「サービス残業拒否」運動も本格化するだろう。

アメリカのある企業は、従業員が自宅の近くで働けるようにと、企業そのものを細かく分解し、地域に散らばらしてしまった。そして最後は在宅勤務だ。

このように、通勤や残業、単身赴任など、豊かな勤労生活を阻む要因を除去しようという動きが広がりはじめた。

中年男性が「ふれあいキッチン」

中年男性の料理講座が流行中だ。料理法の伝授というより、地域社会で孤立している彼らにセットされたふれあいサロン。ところが、このふれあいサロンを中年男性たちも作りはじめた。

東京・銀座のビルの一角に「貸しキッチン」がある。調理場と客席の間が大きく開かれ、仕切りがない。主役は厨房だ。

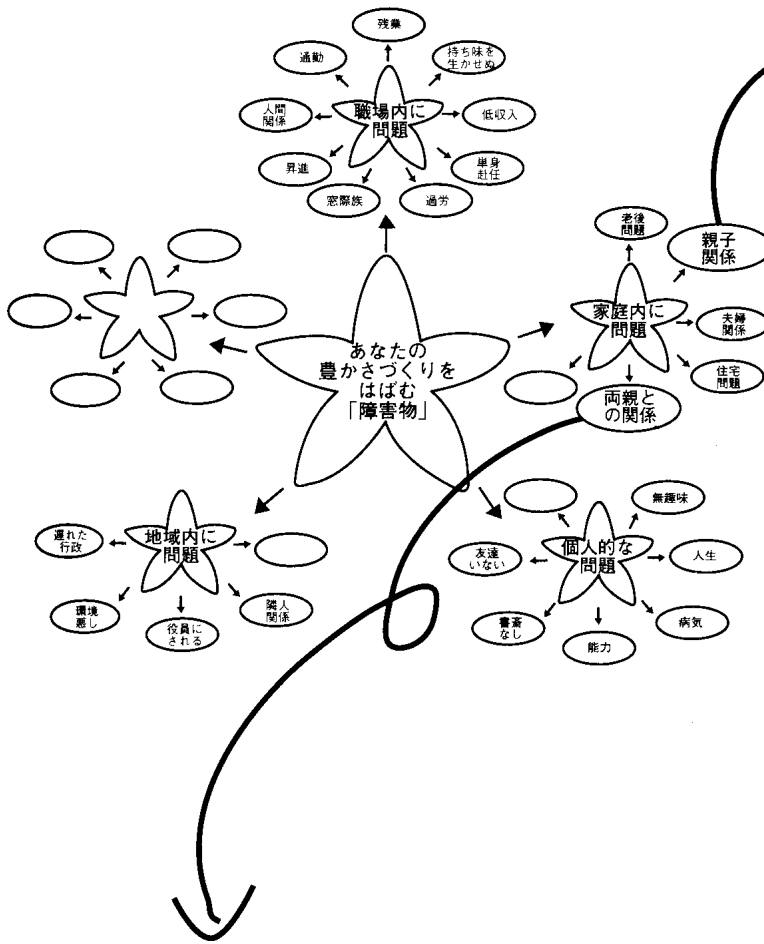
夕方になると、中年の管理職風紳士たちが三々五々集まって、ネクタ

イに腕まくりのエプロン姿。伊勢エビは刺身、タコはゆで、イカはバター焼きと、てきぱき処理していく。

単身赴任の同僚の歓迎会を、初めはいつもの飲み屋でと考えていたが「どうせなら自分たちで作って食おうぜ」。作る食べるは三分の一、あと談論風発。

そういえば、ふれあいの場としてキッチンは昔からサイコーだった。レストラン「カーサ」は昼間を主婦たちの井戸端会議に開放している。男も負けるな！





「男の子育てを考える会」

作った

男性が男性の立場で子育てを考えていこうというグループが東京にできてもう15年ほどになる。初めは「男の子・育て」と間違われたぐらい、一般市民にも違和感があったが今では同種のグループが各所にできるようにまでなった。

「男は仕事、女は家事という役割分担の下で、仕事人間の男はしゃにむに生産へと駆り立てられ、他人を押し潰し、優しささえ亡くしている。男だって差別されているのだ。育児への初めの一步は、心優しい人間への旅立ち」と言う。

このグループはすでに、新聞を発行したり、「男の育児書」などを出版したり、あるいは会の趣旨を分かりやすくシナリオ化した脚本で寸劇を演じる「オットコ座」もつくって公民館や労働組合などへ出前もしている。

要介護の親と二人暮らしできる家！

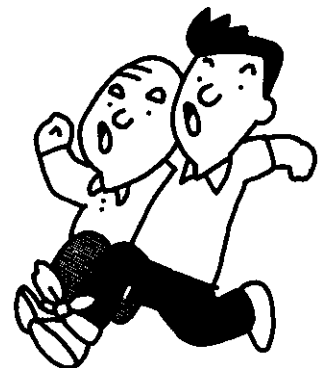
「もしあなたが要介護の親と二人暮らしをしなければならぬとしたらどうしますか？」 - こんな悩みを解決できる住宅が大阪に生まれた。

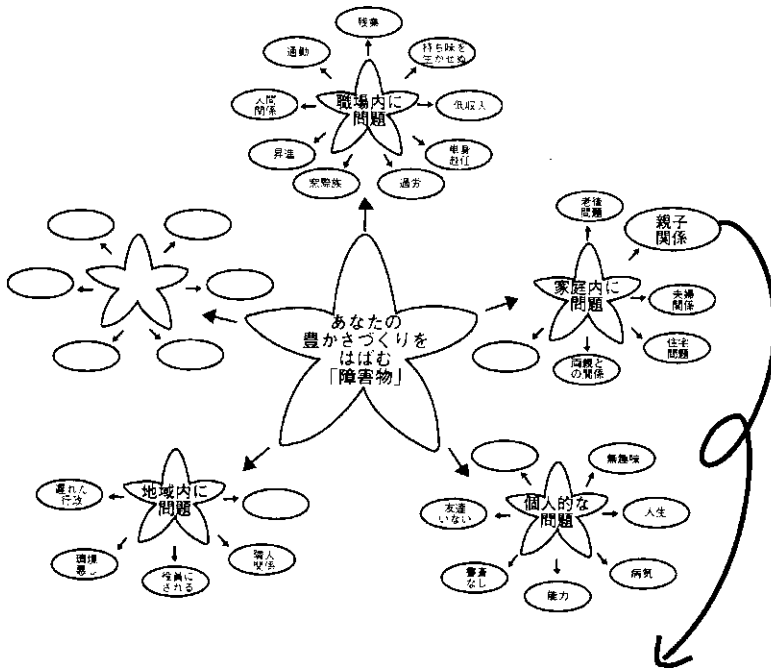
たまたまこの悩みを抱えたOLが生活科学研究所（住む当人を主体にした高齢者住宅作りをすすめる）のアドバイスで作ったのが大阪の新町の「シニアハウス」。

朝勤めに出るときに、母親を一階のデイケア・ルームに預け、勤めから帰ったらその母と一緒に生活ができるというもの。

同研究所では、これと同じような境遇のサラリーマンのために「ワーキング・ハウス」と銘打って、新町型の住宅を建設していくことも検討している。

家庭内にハンディを抱えた男性諸君、あなたの問題だって、やり方次第では解決できるのだ！





障害児抱えた組合員が団結すれば

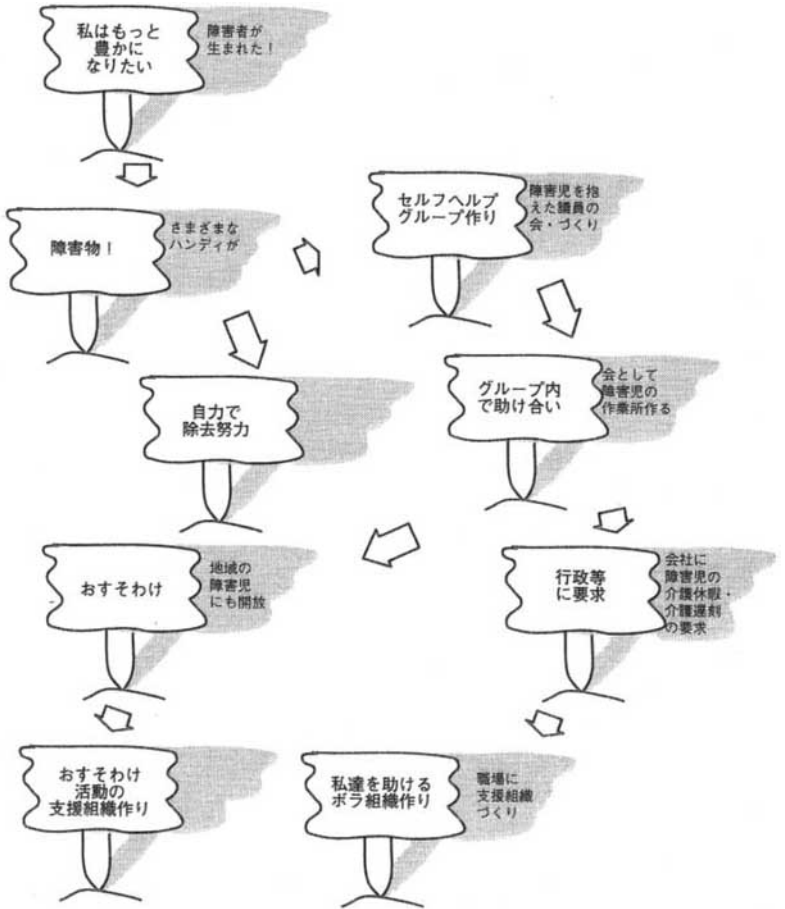
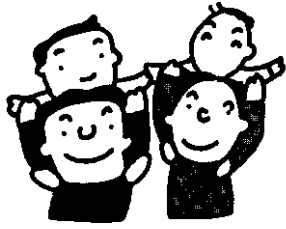
労働組合といえば、賃上げ闘争と相場が決まっていますが、じつは組合員の悩みは給料の低さだけではない。例えば障害児を抱えた組合員にとっては、それこそ給料の問題どころではない、ぐらいに深刻だ。

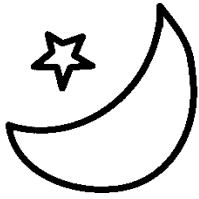
たまたま電気労連の神奈川地協がそれに思い至り、障害児を抱えた組合員のための支援活動に取り組むことになった。地区ごとに、組合員以外の障唐児たちも加えた地域訓練会などを作り、さまざまな側面援護をしてきた。

皆で一緒に取り組めば広がり

この障害児を抱えた組合員たちの取り組みを、すでに紹介した子連れママたちの行動のフローチャートにあてはめていくと図のようになる。

「障害児を抱えた組合員の会」を作り、そこで自分たちの願いを実現させていくと同時に、これに同じ組合員仲間の協力を求めていく。また行政や企業側にも、例えば障害児のための介護休暇を要求する。もっと発展すれば地域のたくさんの「親」たちの支援活動もしていく...

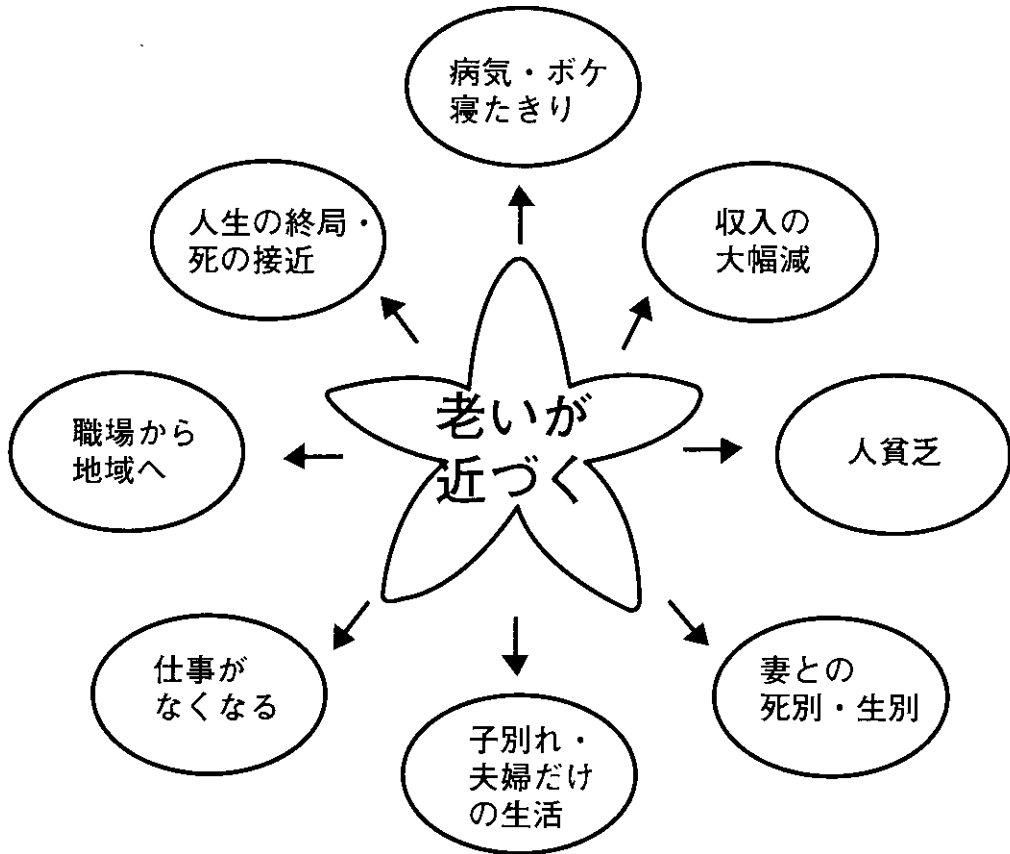


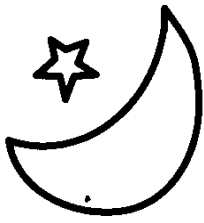


5 「老後対策」も人生設計に組み込まねば

「あり得る」ことにもしっかりと備えられる人が、真に「自立した人」

今の問題だけでなく、未来に待ち構えている（あり得る）「問題」についてもしっかりと準備をしておくことも必要です。老後に誰でも体が弱り、ボケが訪れ寝たきりの可能性もあります。妻との死別だって、起きないという保証はないのです。それにしっかりと備えられるこそ人が本当に自立した人と言えましょう。





6 学ぶ この人たちの危機管理のセンス

日本人にはもともと危機管理のセンスが欠けているのですが、それでもこの資質を備えた人がいないことはありません。これを「ヘンな人」などと言わずに、むしろそのセンスを学ぶべきなのです。

助け合いグループ作りも
横浜市緑区の主婦たちが6年前「グループたすけあい」を組織した。動機は自分たちの老後対策。

そろそろ老後が見えてきた頃改めて周囲を見渡したら、将来の私を介護してくれそうな人は見当らない。せめて仲間同士だけでも助け合おうと50名で組織。

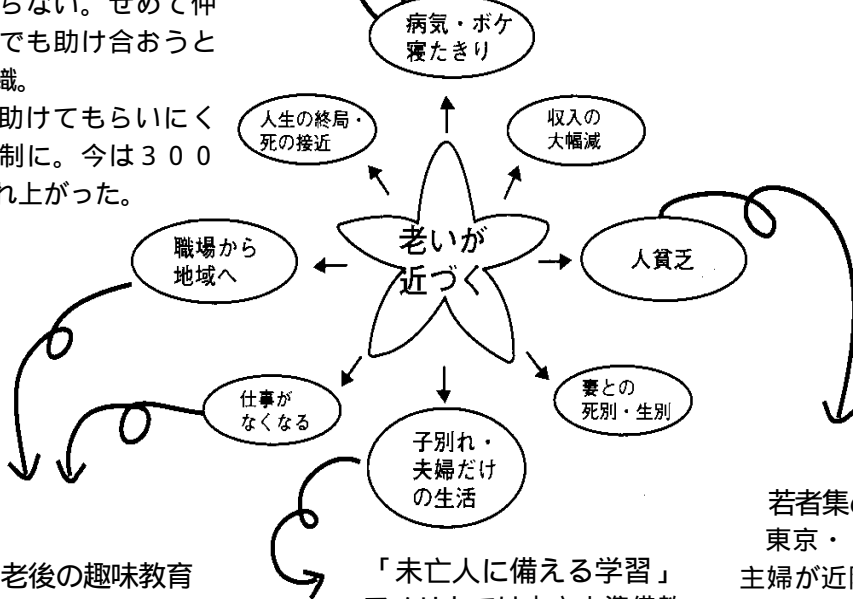
タダでは助けてもらいにくいと、有償制に。今は300人近くに膨れ上がった。

高校生に老後の趣味教育
ドイツでは高校生に囲碁が教えられているという。

ジャパンの文化を教えようというわけ？ いやいやこれがなんと、この子たちの老後の生きがい対策なのだ。つまり高校生のときからしっかりと老後に備えさせる教育をしていたのだ。

自分のおむつを縫う主婦
老人ホームでおむつたamiのボランティアをしていた50才の主婦が、あるとき「自分も将来こうなるかも」と思い至り、以後毎日コツコツと自分自身のためのおむつ

を縫いはじめた。
これが新聞に載ると二通りの反応が。一つは「凄い!」。もう一つは「ちょっと早いんじゃないの?」
さて、あなたは?



「未亡人に備える学習」
アメリカでは未亡人準備教育が、公民館などで開かれている。夫に死なれるかもしれないと予想し、今からそれに備える学習会。

この種の教室が日本でも行なわれたとして、これに私も通っている、と妻に打ち明けられたら、夫のあなたはどう反応するや?

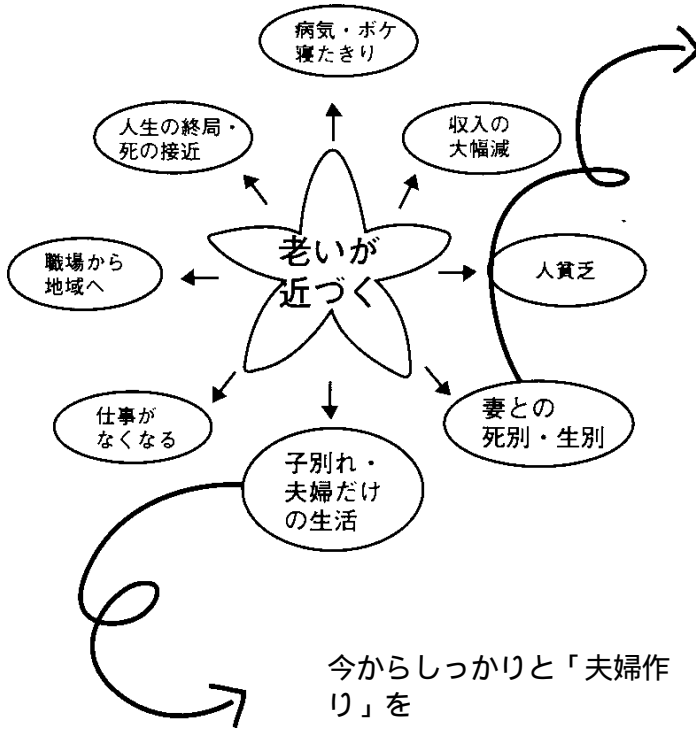
若者集め裁縫教室。実は東京・K市。ある中年の主婦が近隣の若い主婦を集めて無料の裁縫教室を開いている。

「なぜ?」の問いに「これは私の老後対策」。老後とは、いわば「人貧乏」への道。年を取るほど友達が欠けていく。それに備えて今から「人貯金」をしているのです!



お父さんの「老後対策」。例えばこんなふうに

それでもいろいろ探してみると、お父さんの中にも、きちんと老後対策を立てている人もいないことはありません。それを会社がリードしてくれるケースもあります（「夫婦一緒にカルチャーセンター」を会社が補助）。



伴侶に先立たれた中高年集まれ！

田代貴久恵さんは16年前に母を亡くした。ある夕方、父が庭に向かって「帰ってこーい！」と叫んでいるのを見て、一人身の孤独の恐ろしさを知った。

「何かしなければ」と思い続けて8年、「独身の中高年よ、集まれ」と新聞投書したら確かな手応えが。

「女房に死なれ、毎日外食。勤めから帰ると、朝脱いだ靴下が玄関にころがっている。わびしい」とサラリーマン。妻の死後3日間誰とも話さず、家に籠もっていた男性から電話が。しかし声が出なくなる」と聞かされ、りつぜんとした。

集まった者で「若康会」を旗揚げ。月1回集いを開く。ダンスパーティ、ハイキング、セミナーなど。

効果はてきめん。妻の死後、弱っていた男性が、入会後2ヵ月もするとニコニコしはじめる。鬱（うつ）の人が医者許可を得て集いに来る。普段歩けないのにこの時だけは自然に足が立つ。「同じ境遇の者が集うと、いかに心休まるものか、体験した人でなければ分からない」と田代さん。

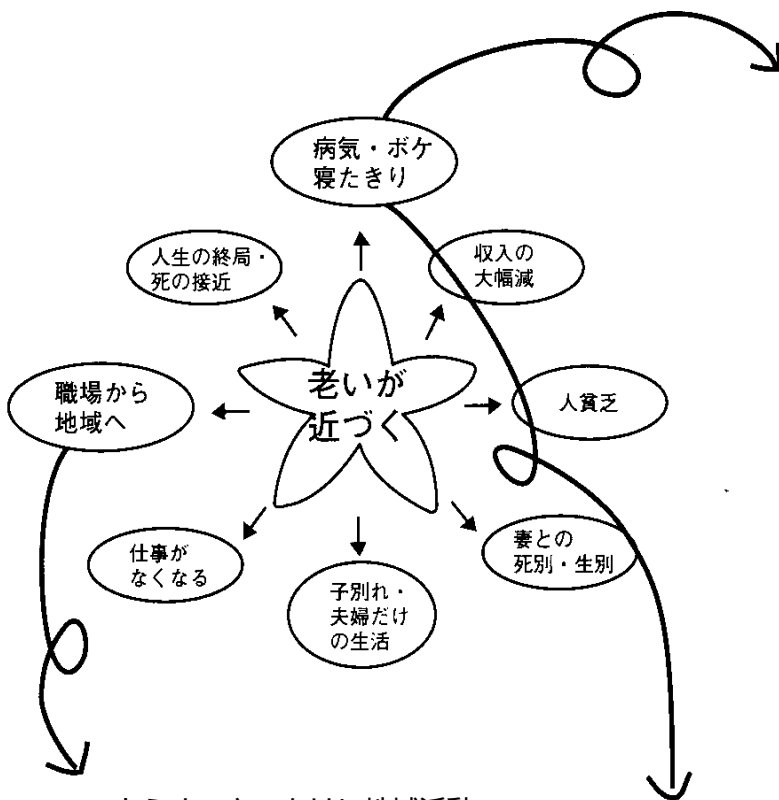
仲間作りも大切。新入会員には、どこかのグループに入るよう誘いかける。似合いのカップルには再婚を薦める。もう10組もまとまった。

今からしっかりと「夫婦作り」を

上智大学の渡部昇一先生はある団体主催のシニア大学に招かれた。定年退職後の夫婦を対象に、ハワイへ行く途中の甲板で講義を担当する。

初めは「オマエと席を並べるのも何十年ぶり」などと仲睦まじい。しかし数日すると今晚の食事は何にといいことでケンカを始めた。ふと見ると夫婦別々に座っている。また数日、船内の各所でグチが。「こんなことはもともと無理だったんだ」何十年やっていないことを即席でやっても、というわけ。

そこで渡部先生は悟る。今からしっかりと夫婦作りをしておかねば...



寝たきりに備え家をハイテク改造

東京・狛江市に住むある男性が、老後に備えてハイテク利用の住宅を新築した。終生ここで生活するとなると、体が不自由になった場合の備えまでしておく必要がある。

そこで自身も車椅子で移動ができるよう部屋と部屋の段差をなくし、スロープで庭先からリフトで車椅子のまま屋内へ入れるようにした。寝たきりになったとき介護されやすいようベッドから書斎、トイレ、浴室を結ぶトランスファー装置を取り付け、照明はすべてリモコン操作。二階には自分を介護してくれるはずの長男夫婦用の部屋を用意。新築費用のうち老後対策分は四百万円。サラリーマンでもできない話ではない。

セミナーきっかけに地域活動開始

三菱電気では社員教育を労使協調ですすめているが、そのいっかんとして40才の社員対象に「シルバープラン」を実施している。これまでの人生を振り返り、老後へ向けた人生設計をさせようという。講義、討論、実習など一週間の中に多彩なプログラムが組み込まれている。

セミナーを受講してその後どんな行動を取るようになったかを追跡調査したら、以下のような結果が。

このセミナーをきっかけに スポーツクラブに入会した。カルチャーセンターへ通うようになった。地域の趣味の会に入会した。テニス、魚釣り等家族と一緒に行動するようになった。地域の役を積極的に引き受けるようになった。地域の行事・集会に極力参加するようになった、など。老後が切実に迫ってくると男はこういう行動をとりはじめる、ものなのだ。

世話になるぞと息子に言えるか？

長野県のある町で、町長までやったことのある一人の紳士に会った。たまたま家庭介護の話になると、自身の体験をこう語り始めたのだ。

「ワシはね、今から息子にこう言い含めているんですよ。『年を取ったら、オメエに面倒みてもらうからそのつもりでいるよ』とね。ヤツの部屋はもう作ってあげました。今は東京の大学へ行っていますが、そのうちにきっと帰ってきますよ」。

ちょっとやさそとでは壊れそうにない頑丈そうな身体、自信に満ちた目、つまり、まだ老後を考えるには早いと思わせる紳士からこんな言葉が発せられるとは、意外な感じがしたものだが、これが「老後に備えるセンス」というものかもしれない。

第4章

公務員の 「本業ボランティア」活動

市民サービスを延長すればこれも活動。

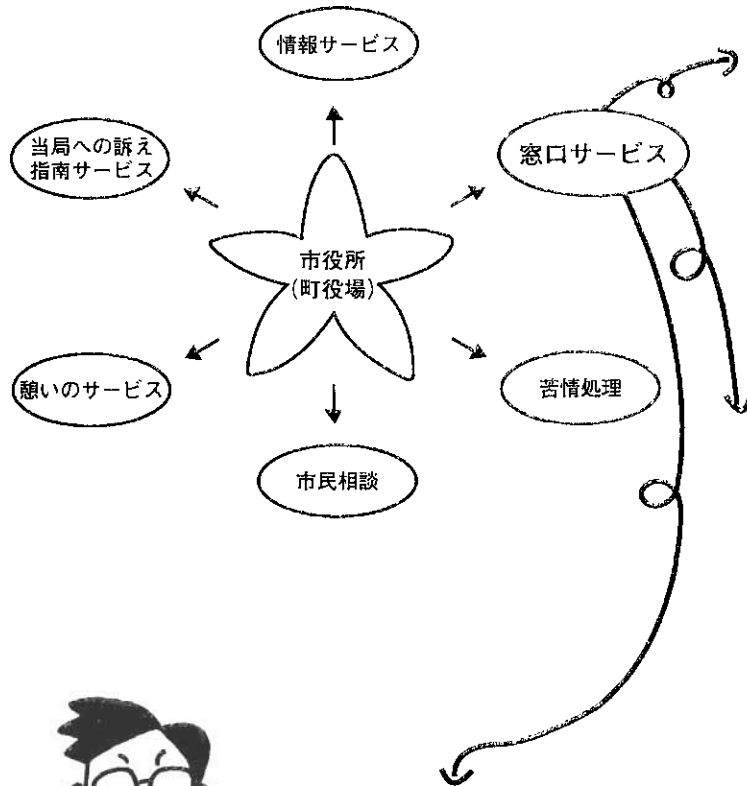




1 通常のサービスをもう一步踏み込めば「ボランティア」の匂いがしはじめる

市役所といえば、住民サービス機関そのものですから、それを改めて「ボランティア」というのはおかしい、という見方もありますが、その通常のサービスをもう一步踏み込めば、そのサービスには「ボランティア」の匂いがしはじめます。

例えば、窓口サービスを、例えば老人のために手続きを代行してあげたり、障害者のために、市役所の外で手続きができるようにしてあげれば、とてもありがたいと思うでしょう。そのあたりを大切にしてみたらどうでしょうか。



年金資格者へ連絡、手続きを代行
東京・世田谷区では老人医療費や年金などで、資格があるのに申請を出していない人をコンピュータで探し出し、往復はがきで知らせるサービスをしている。申請したい人は返信はがきに印鑑を押して返送するだけで、手続きは区が代行する。

障害者は市役所入り口で手続き可
東京・東村山市役所では、守衛の詰め所に身障者ドライバー専用の庁内電話を設置。守衛が電話を車内に運んで来て、用事のある窓口へダイヤルすると、担当者が駆け付けてきて各種手続き、交付一切が車内で済むようにした。

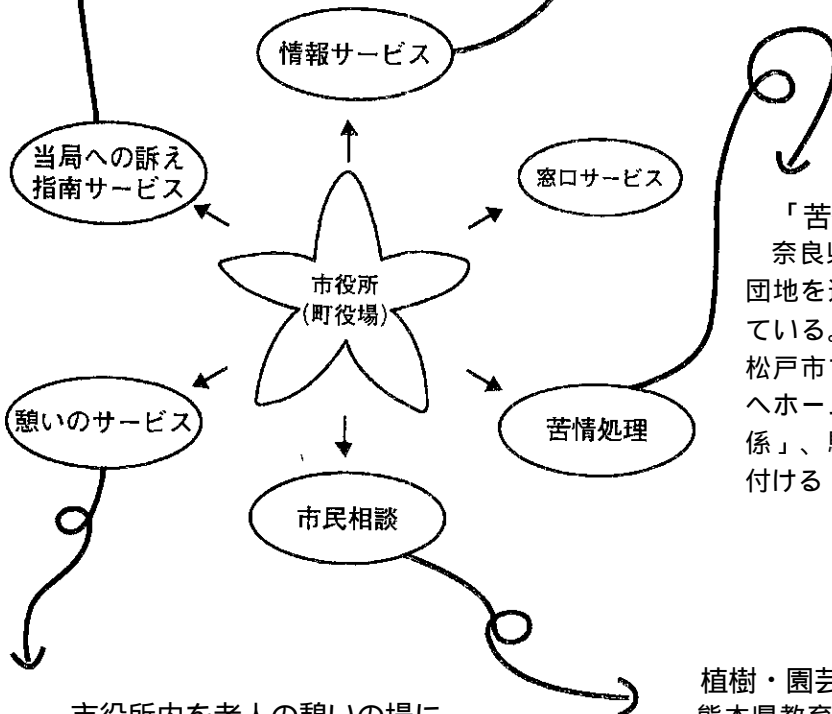


各課職員で手話サークルの会結成
聴覚障害者相手の窓口業務や対応に支障が出ないように埼玉県戸田市役所では各課職員を募って手話研修をしている。研修を受けた職員らが中心になって「手話サークルの会」を結成。

町当局へのアピール・ミニコミ
熊本県のある町の職員は、住民といっしょに、町のいろいろな問題を町当局へアピールしたり提言したりするミニコミ誌を作っている。

その他に、自然環境保護運動などのリーダーシップをとりながら、当局への問題提起や訴えを指揮している職員も出てきている。いずれも、町の情報や、当局への効果的なアピールのし方に通じている内部職員の立場をうまく生かした活動だ。

イラスト入りの市民条令集を発行
柏市は、ごく一部の人にしか知られていない市の条令を多くの人に読んでもらって、市政に協力してもらおうと、「ゆびきりげんまん・柏市民条令集」を発行。市民が理解できるように写真やイラスト入りで、子供の進学、ゴミ処理、税金の確定申告など、さまざまな生活の場面で関係のある条令を紹介。



「苦情処理車」が皆様の所を巡回
奈良県三郷町では、職員3名が毎日団地を巡回して、住民の苦情処理をしている。一方「すぐやる課」の千葉県松戸市では、寝たきり老人や身障者宅へホームヘルパーが巡回する「お世話係」、駅の売店で住民登録などを受け付ける「出前係」などを設置。

市役所内を老人の憩いの場に
老人にとっては、市役所も一つの憩いの場だ。そこで、最近、市役所の一角に血圧の自動測定器を置くなどで、老人の社交場・憩いの場として庁舎を開放するところが増えてきた。

香川県山本町では、町長室の一角に、町のゆかりの人の著書などを集めた「ふるさと文庫」を創設し、町民に開放している。

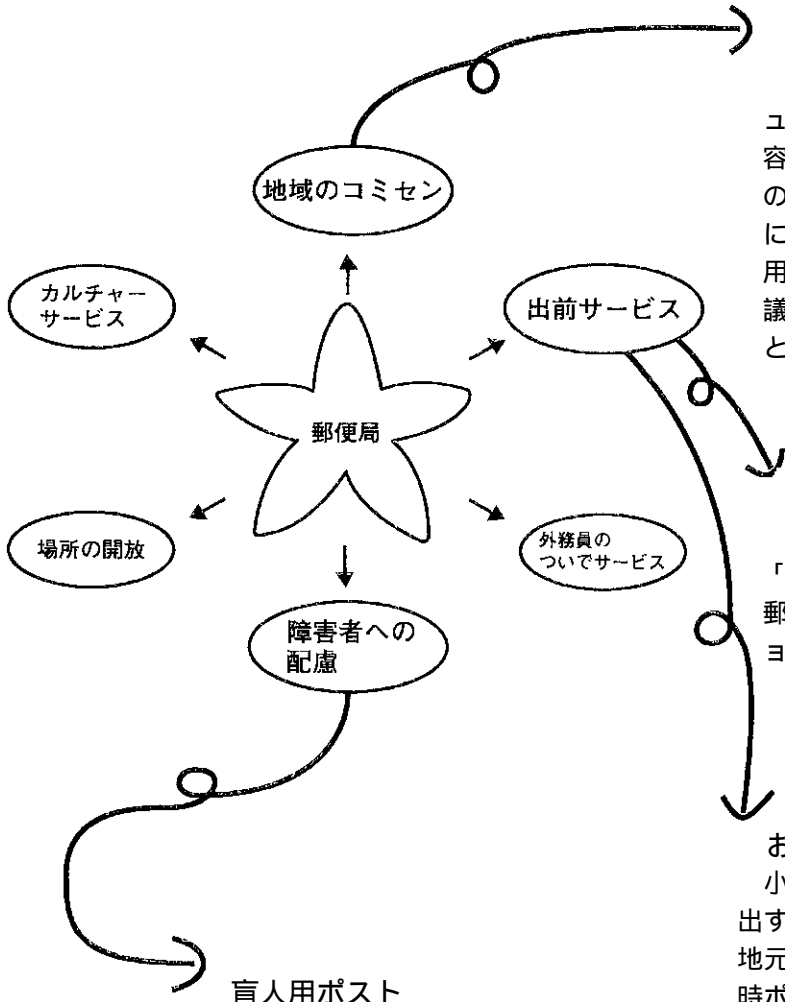
植樹・園芸相談や献立相談します
熊本県教育委員会では2、3歳児に関するあらゆる相談を受け付ける「育児電話相談」を社会教育課に設置。大津市では週2回、市長が直接市民の要望を聞き、処理する「市長相談室」を開設。北海道岩見沢市では一人前100円前後でできる夕食の献立を教えるキッチン・ダイヤル設置。

岩手県盛岡市では週2回、専門家による植樹・園芸相談をしている。町内会へ出張もしている。



2郵便局は、結局は地域のコミュニティセンターになる？

郵便局が、いわゆる「経営努力」の結果、なかなかオモシロイ働きをするようになりました。一人暮らし老人の友愛訪問をはじめ、局を開放して各種展示会やカルチャーセンターの開催や市民運動の拠点に、さらには地域のコミュニティセンターになってしまうところさえ出てきています。局長の発想次第では素晴らしい活動ができるものなのです。



コミュニティセンター
全通は郵便局を地域に密着したコミュニティセンターにすべきだという内容を骨子とした改革案をまとめた。そのために全国の郵便貯金の一部を地方に還流させたり、サラ金より低利で利用しやすい小口金融を開設したり、会議室を地域住民に開放するなどが必要としている。

愛の郵便屋さん
バレンタインデーに横浜・高島屋「幸せの泉バレンタインショップ」に郵便局員が常駐、2月14日必着でチョコレートや手紙の郵送を受け付けた。

お便り運動に協力
小学校などで地域の老人にお便りを出すという活動をしているが、その時地元郵便局員が学校へ出向いて、臨時ポストを設置する場合がある。

盲人用ポスト
郵政省は目の不自由な人たちが郵便物を投函しやすくするために、郵便物の差し出し口が二つあるポストに点字表示したテープを貼ることにした。

カルチャー教室

地域文化の向上に一役買いたいと東京郵政局が都内の郵便局の施設を開放して、全国で初めて郵便局主催のカルチャー教室を開いたところ、申し込みが殺到。

市民マラソンの受付

埼玉県東松山市の松葉町郵便局は郵政業務の他に市民マラソン参加者の受け付けや読書会なども担当している。



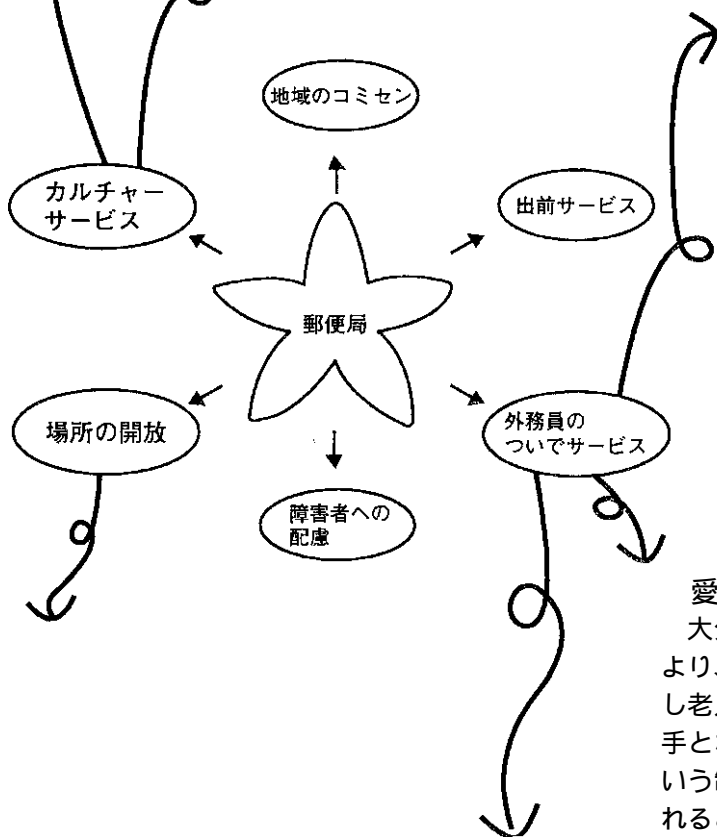
北欧では4種類の仕事を引き受け
北欧では老人がスーパーなどに注文したものを外務員が受け取って老人宅まで届ける品物配達サービス、老人宅を週に一、二回巡回し、病気になっていないか冬の除雪や洗濯で困っていないか見回り、助けが必要なときすぐに役所に知らせるコンタクトサービス、差し迫った必要はないが、一人で寂しい老人を訪問して話し相手になる家庭訪問、老人に苦手の書類作りや、家の中の小さな仕事も手伝う特別サービスの四種類の仕事を引き受ける。

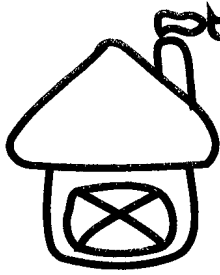
愛のふれあい便

大分県西部の久住町では昭和60年より、郵便屋さんが毎週一回一人暮らし老人に町役場の郵便物を届けて話相手となりその近況を役場に報告するという制度がスタートした。買物を頼まれることもあるという。

シルバーホーム・サービス

全通中国地方本部は独居老人を月に一、二度訪問し、貯金の出し入れや郵便の受け渡し、役場への用事を引き受けたり、薬を病院に取りに行くといったサービスをはじめることにした。

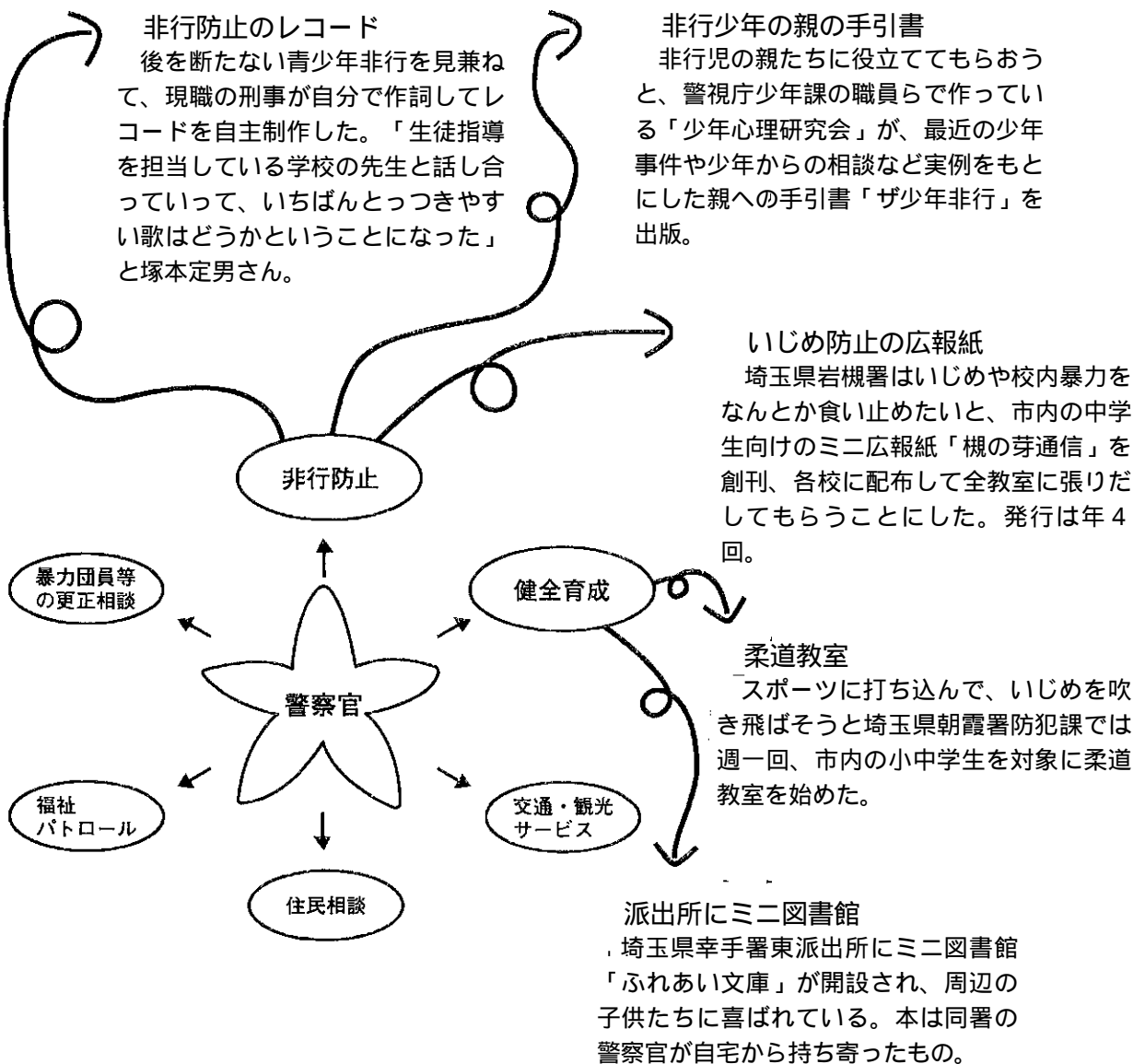




3 犯罪取締りから非行防止、健全育成へ進むほど「ボランティア」の味が、

警察官は、犯罪者の逮捕、犯罪の取締りが本来の仕事ですが、それを発展させて、犯罪の防止、さらに健全育成へと進んでいくにつれて、だんだんと「ボランティア」活動の匂いがしはじめます。地域パトロールのついでに、一人暮らし老人宅に弁当を届ける警察官だっているのです。

一般に警察官は公務員の中でも特に社会活動への関心が深いようで、その活動内容もバラエティーに富んでいます。



浮浪者に散髪
 埼玉県大宮署は市街地に住む浮浪者を集めて、にわかづくりのドラム缶のフロに入れたり、散髪奉仕をしたり、署員が持ち寄った衣服や靴を与えたりした。

足を洗いたい組員に仕事を世話
 暴力団から足を洗いたいと申し出た組員に仕事を世話したり、各種の生活相談に応じる警察官が出てきている。

障害者用信号システム
 身障者や老人ら交通弱者が横断歩道をゆっくり渡れるようにと、手に持った超音波発信器のボタンを押すだけで青信号の時間が延びる新システムが警視庁交通部で開発された。

交通安全百人一首
 浦和署の交通課巡査部長は小倉百人一首をもじった交通安全百人一首を作り、その色紙を展示。

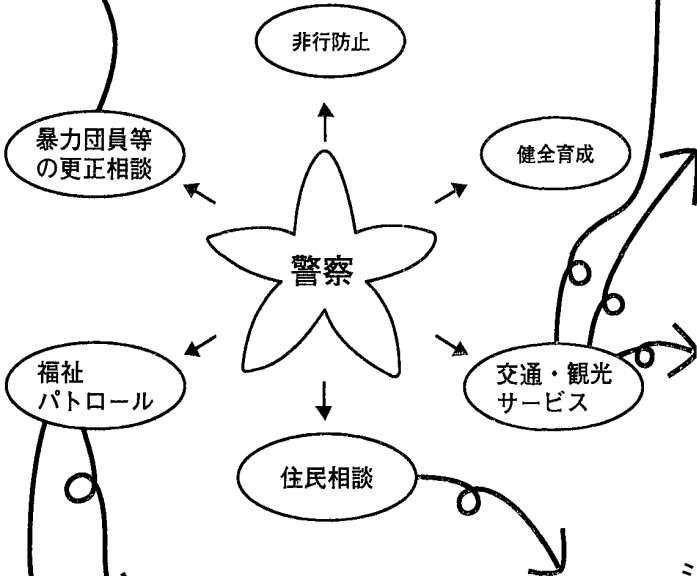
観光交番
 県外から来た観光者に各交番が地元の史跡や景勝地を教える観光交番を熊本県警が始めた。

シルバー110番
 広島県警はシルバー110番を新設、老人からの困り事相談に応じることにした。



老人パトロール
 詐欺まがい商法の被害者にもなっている一人暮らし老人を守ろうと、福岡県警は毎月15日を老人パトロールの日に制定、外勤警官を動員して県下一斉に独居老人世帯を中心に巡回することにした。

独居老人に弁当宅配
 九州地区のある駐在所の警官は一人暮らし老人宅を巡回する際に毎回数人分の手作りの弁当を持参している。

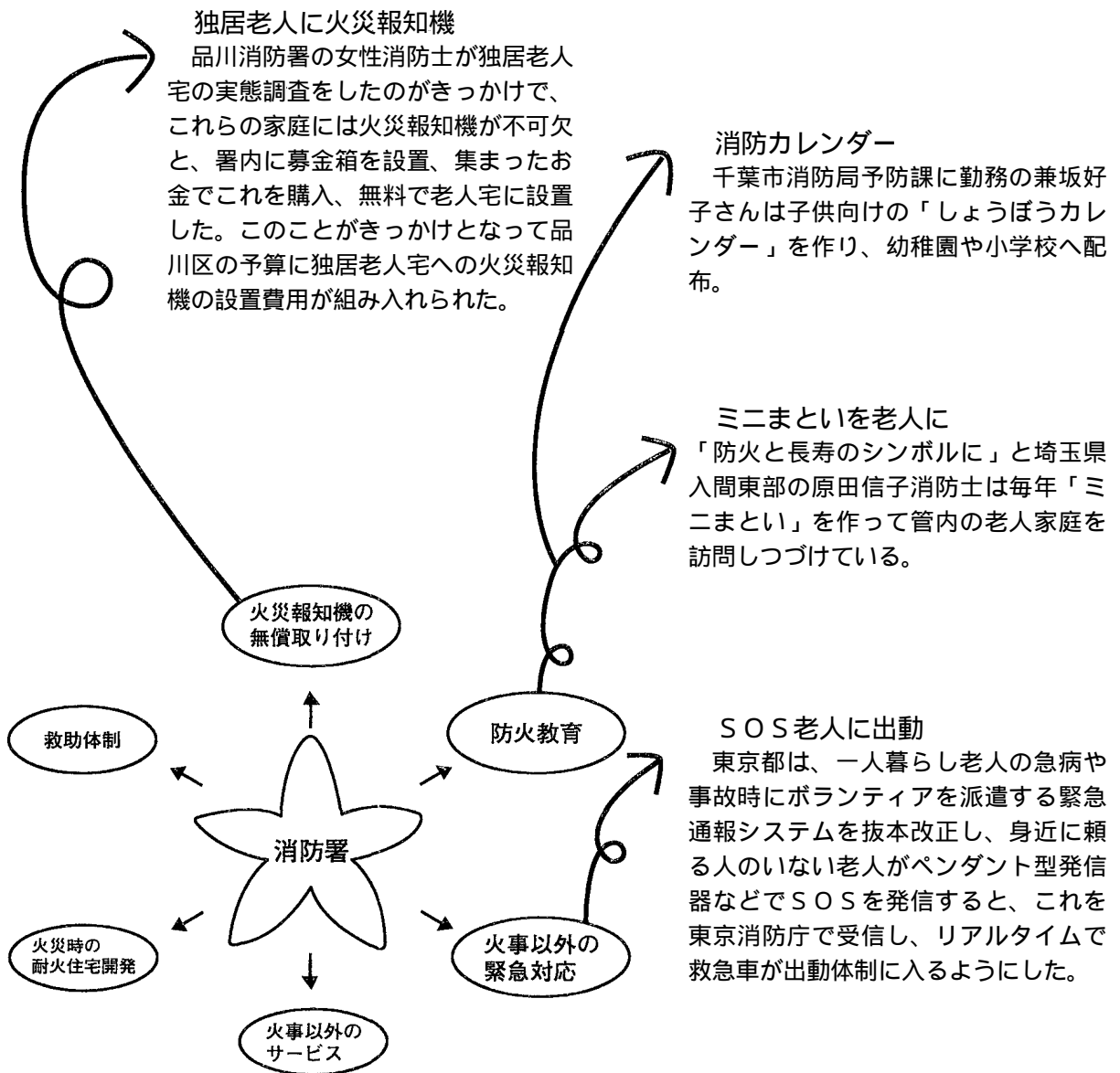




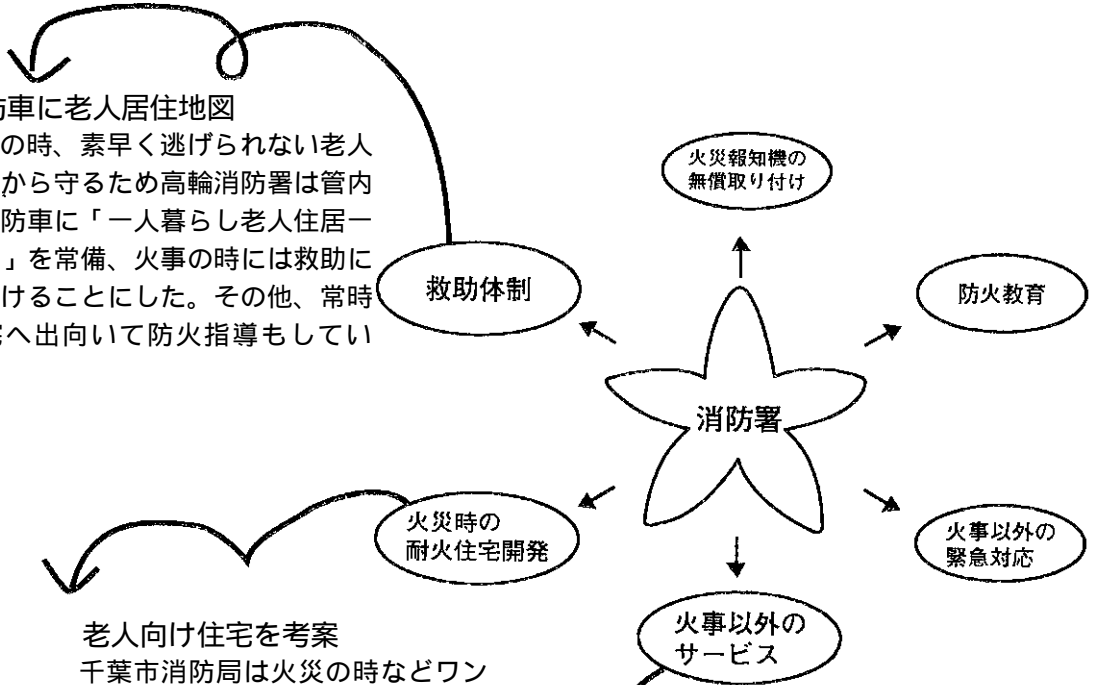
4 「火災」の周辺に さまざまなニーズが待ち構えている

消防署の役割は、火災の予防と火災時の対応（消火）でしょうが、この業務を拡大していくと、さまざまな「緊急事態」にまで対応せざるをえなくなります。

また火災の危険が大きい一人暮らし老人宅には、ただ防火教育だけではすまなくなり、そこからさまざまな老人サービスが生まれてきます。それらにかかわっていけばいくほど、消防署員も「本業ボランティア」らしくなっていくのです。



消防車に老人居住地図
 火事の時、素早く逃げられない老人を焼死から守るため高輪消防署は管内の全消防車に「一人暮らし老人住居一覧地図」を常備、火事の際には救助に駆け付けることにした。その他、常時老人宅へ出向いて防火指導もしている。



老人向け住宅を考案
 千葉市消防局は火災の時などワンタッチでベッドに寝たまま戸外に避難できる装置を考案した。名付けて「緊急脱出装置付き住宅」



市役所職員が食事サービスに参加
 島根県平田市では市役所の職員が一人暮らし老人への食事サービス活動に参加している。5年前、市長が庁内職員にボランティア活動への参加を呼び掛け、これに応じて管理職・職員組合で構成するボランティア活動運営協議会が設置された。たまたま市の社会福祉協議会が一人暮らし老人への食事サービスを月2回から4回へ増やす計画が持ち上がり、それに取り組もうとなった。庁内から公募したら20名ほどが応募、昼休みの時間を利用しての活動が始まった。訪問ついでに各種の情報提供サービスも兼ねることがわかってきた。参加している消防署職員の場合は防火予防も兼ねている。

一方、札幌市では環境局清掃部の野球部員が一人暮らし老人の除雪奉仕を続けている。



市民の活動をそうと認知して、地域に「分館」を作っていくのも活動だ

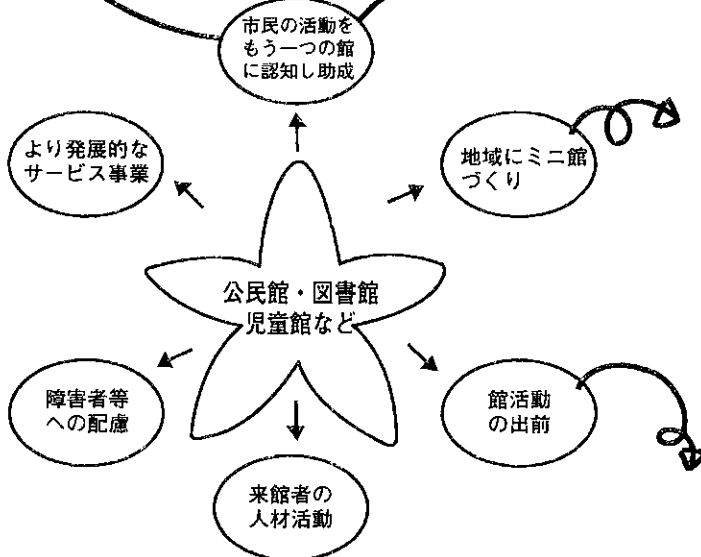
公民館や図書館、児童館の「ボランティア」らしき活動を拾い出してみたら興味深い点が出てきました。というのは、公務員の活動は、その本業を生かして、自ら取り組むだけでなく、さらに市民の活動を側面から支援していくのも、もう一つの活動とみなしていい、ということなのです。

例えば公民館が、市民の営みの中でそれらしき活動を発掘し、それを（例えば）「老人学級」と認知し、補助金を支給するというように。これで市民も助かるし、こちらも助かる、というわけです。

一般家庭を「老人学級」に認知
東京・調布市立の公民館は、市内の勝田家で開かれている高齢者たちの自主学習活動を「老人学級」と認知し、その経費を助成している。たまたま勝田さんが近隣の高齢者を集めてサロン兼学習会を開いているのを公民館で知り、これを助成することになったものの。

「小さな児童館」活動にも助成

主婦が自宅を開放して、近隣の子供を呼び集め、さまざまな遊びや活動をする「小さな小さな児童館」活動が広がっているが、これに助成する自治体もある。



地域文庫への貸し出し

公共図書館が地域で自主的に運営されている児童文庫（家庭文庫を含め）への団体貸し出しをしているところもある。

寝たきり老人に宅配

東京・豊島区の区立図書館は図書館まで足を運べない寝たきり老人や重度の心身障害者などが本の貸し出しを希望すれば車で自宅まで届けている。



セミナー開き市民と一緒に考える
埼玉県内の公民館の女性職員たち
が、自主学習の延長で、毎年「女性問
題を考えるフォーラム」を開催してい
る。

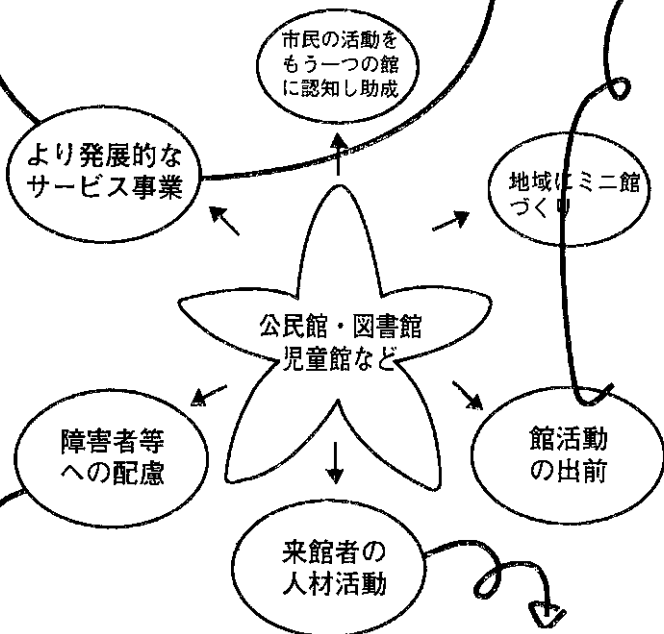
学習の企画から参加者の募集、当日
の受付け、シンポジウムのコーディネ
ーターまでを分担している。

千葉県柏市役所内の女性幹部職員に
よるサークルも、独自の学習会を公開
で開いたり、庁内の女性職員を対象に
アンケート調査を実施して、女性公務
員の問題を分析・整理し、関係者に配
布するなどの活動をしている。

障害体験コーナー

アメリカ・インディアナ州の子供博
物館には障害体験コーナーがあって、
そこで子供達は車椅子や松葉杖点字な
どの体験をすることができるようにな
っている。

皆様の近くに「児童館」運びます
地域に児童館はあっても、なかなか
そこへ子を連れていくのは大変。そこ
で、東京・中野区では、区内の遊び場
など、若いママが子どもを遊ばせに集
まる場所へ、児童館職員が出かけて、
そこを即席の児童館にしましょうとい
う「巡回児童館」を実施している。あ
らかじめ、地域の数か所を開催場所と
決め、巡回の日時を住民に知らせてお
いて、そこを数名の職員が車で巡回す
る。



より発展的な
サービス事業

市民の活動を
もう一つの館
に認知し助成

地域はミニ館
づくり

公民館・図書館
児童館など

館活動
の出前

障害者等
への配慮

来館者の
人材活動

障害者にも配慮した図書館

埼玉県鶴ヶ島市は新たに建設する図書
館の構想をまとめた。これによると幼
児を連れてきても気軽に本を読める防
音装置を施した部屋やコーヒーを飲め
るような喫茶店があったり、車椅子で
入館した場合そのまま本の選択ができ
るように通路のスペースを広くとったり、
身障者用の机も用意する、また読
書会や文庫などの団体やサークルが自
由に活動できる場もとるなど、図書館
をコミュニティの推進の「館」として
位置付けられている。

リハビリ教室に趣味サークル派遣

神奈川県相模原市の大野北公民館
は、たまたま館内に地区の社会福祉協
議会の事務局があることから、ユニークな活動が始まった。

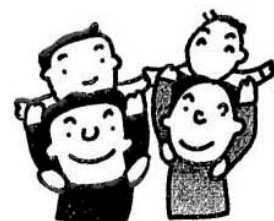
その協議会がリハビリ教室を開いた
ものの、「単なるリハビリではおもしろ
くない」と、対象者がだんだんと減
ってきた。そこで館長に相談したとこ
ろ「ウチの趣味サークル」を活用した
らどうかとアドバイス。以降、公民館
で育ったちぎり絵サークルや踊り、折
り紙などのサークルがリハビリに生か
されるようになった。

付録 ● 神奈川県内関係機関一覧

神奈川県ボランティア・センタ -	横浜市神奈川区鶴屋町 2 - 24 - 2 神奈川県政総合センタ - 内	045 - 312 - 1121代
横浜市社協ボランティア・センタ -	横浜市中区桜木町 1 - 1 健康福祉総合センタ - 内	045 - 201 - 8620
鶴見区ボランティア・センタ -	鶴見区鶴見中央 3 - 20 - 1	045 - 503 - 1212
神奈川区ボランティア・センタ -	神奈川区広太田町 3 - 8	045 - 323 - 1212
西区ボランティア・センタ -	西区中央 1 - 5 - 10	045 - 322 - 6848
中区ボランティア・センタ -	中区日本大通り 35	045 - 681 - 6664
南区ボランティア・センタ -	南区花ノ木町 3 - 48 - 1	045 - 742 - 1212
港南区ボランティア・センタ -	港南区港南中央通り 10 - 1	045 - 841 - 1212
保土ヶ谷区ボランティア・センタ -	保土ヶ谷区川辺町 2 - 9	045 - 341 - 9876
旭区ボランティア・センタ -	旭区鶴ヶ峰 1 - 4	045 - 955 - 1123
磯子区ボランティア・センタ -	磯子区磯子 3 - 5 - 1	045 - 751 - 0739
金沢区ボランティア・センタ -	金沢区泥亀 2 - 9 - 1	045 - 782 - 1212
港北区ボランティア・センタ -	港北区大豆戸 26 - 1	045 - 543 - 1212
緑区ボランティア・センタ -	緑区寺山町 118	045 - 931 - 2478
戸塚区ボランティア・センタ -	戸塚区戸塚町 157 - 3	045 - 881 - 1212
栄区ボランティア・センタ -	栄区桂町 303 - 19	045 - 894 - 8181
泉区ボランティア・センタ -	泉区和泉 4636 - 2	045 - 863 - 2414
瀬谷区ボランティア・センタ -	瀬谷区二ツ橋町 83 - 4 在宅支援センタ - 内	045 - 361 - 2117
川崎市ボランティア・センタ -	川崎市川崎区日進町 5 - 1 市福祉センタ - 内	044 - 233 - 7948
川崎区ボランティア・センタ -	川崎区東田町 8 パレ - ル住宅棟 3 階	044 - 200 - 3627
幸区ボランティア・センタ -	幸区戸手本町 1 - 11	044 - 555 - 3111
中原区ボランティア・センタ -	中原区小杉町 3 - 245	044 - 744 - 3111
高津区ボランティア・センタ -	高津区溝ノ口 374	044 - 822 - 4413
宮前区社会福祉協議会	宮前区宮前平 2 - 20 - 5	044 - 856 - 3179
多摩区ボランティア・センタ -	多摩区登戸 1785	044 - 933 - 3111

麻生区ボランティア・センタ -	麻生区万福寺 1 - 2 - 2 新百合 21 ビル 1 階	044 - 952 - 5500
横須賀市ボランティア・センタ -	横須賀市小川町 11	0468 - 25 - 0017
平塚市ボランティア・センタ -	平塚市追分 1 - 43	0463 - 33 - 2333
鎌倉市ボランティア・センタ -	鎌倉市御成町 2 - 21 市福祉センタ - 内	0467 - 23 - 1075
藤沢市ボランティア・センタ -	藤沢市朝日町 1 - 1	0466 - 25 - 1111
小田原市ボランティア・センタ -	小田原市城山 2 - 1 - 5	0465 - 35 - 4000
茅ヶ崎市ボランティア・センタ -	茅ヶ崎市新栄町 13 - 44	0467 - 85 - 9650
逗子市ボランティア・センタ -	逗子市桜山 5 - 653	0468 - 73 - 8011
相模原市社協ボランティア・センタ -	相模原市富士見 6 - 1 - 20	0427 - 59 - 3963
相模原市社協南分室	相模原市相模大野 5 - 31 - 1	0427 - 49 - 2091
三浦市ボランティア・センタ -	三浦市城山町 6 - 6	0468 - 82 - 1111
秦野市ボランティア・センタ -	秦野市曾屋 1 - 2 - 15	0463 - 81 - 2053
厚木市ボランティア・センタ -	厚木市中町 1 - 4 - 1 総合福祉センタ - 内	0462 - 23 - 0086
大和市ボランティア・センタ -	大和市鶴間 1 - 31 - 7	0462 - 63 - 1111
伊勢原市ボランティア・センタ -	伊勢原市田中 300 - 1 モン・テ - ルイセハラ内	0463 - 94 - 9600
海老名市ボランティア・センタ -	海老名市上郷 474 - 1	0462 - 31 - 4122
座間市ボランティア・センタ -	座間市緑ヶ丘 6 - 1 - 11	0462 - 51 - 4117
南足柄市ボランティア・センタ -	南足柄市関本 403 - 2	0465 - 73 - 1575
綾瀬市ボランティア・センタ -	綾瀬市深谷町 3446	0467 - 77 - 8166
愛川町ボランティア・センタ -	愛甲郡愛川町角田 257 - 1	0462 - 85 - 2111
清川村ボランティア・センタ -	愛甲郡清川村煤ヶ谷 2216	0462 - 88 - 1211
葉山町ボランティア・センタ -	三浦郡葉山町堀内 2220	0466 - 75 - 9889
寒川町ボランティア・センタ -	高座郡寒川町宮山 401	0467 - 74 - 7621
大磯町ボランティア・センタ -	中郡大磯町大磯 937 - 4	0463 - 61 - 2168
二宮町ボランティア・センタ -	中郡二宮町二宮 961	0463 - 73 - 0294
中井町ボランティア・センタ -	足柄上郡中井町雑色 31	0465 - 81 - 2261
大井町ボランティア・センタ -	足柄上郡大井町金子 1995	0465 - 63 - 1311
松田町ボランティア・センタ -	足柄上郡松田町松田惣領 2060 - 4	0465 - 82 - 0294

山北町ボランティア・センタ -	足柄上郡山北町山北 1981	0465 - 75 - 1294
開成町ボランティア・センタ -	足柄上郡開成町延沢 773	0465 - 82 - 5222
箱根町ボランティア・センタ -	足柄下郡箱根町湯本 256	0460 - 5 - 7111
真鶴町ボランティア・センタ -	足柄下郡真鶴町岩 244 - 1	0465 - 68 - 1131
湯河原町ボランティア・センタ -	足柄下郡湯河原町門川 439	0465 - 63 - 2111
城山町ボランティア・センタ -	津久井郡城山町川尻 2505	0427 - 82 - 2511
津久井町ボランティア・センタ -	津久井郡津久井町中野 633	0427 - 84 - 3393
相模湖町ボランティア・センタ -	津久井郡相模湖町与瀬 896	0426 - 84 - 4353
藤野町ボランティア・センタ -	津久井郡藤野町小淵 1992	0426 - 87 - 3361
日本赤十字社神奈川県支部	横浜市中区山下町 70 - 7	045 - 681 - 2123
神奈川県ライトセンタ -	横浜市旭区二俣川 1 - 80 - 2	045 - 364 - 0023
神奈川県ろうあセンタ -	藤沢市藤沢 933 - 2	0466 - 27 - 1911
横浜ボランティア協会	横浜市中区住吉町 4 - 42 - 1	045 - 662 - 3716
川崎ボランティア・センタ -	川崎市中原区上小田中 1313 - 1 エポック中原 5F	044 - 711 - 5533
神奈川県青少年協会	横浜市中区住吉町 1 - 2 スカ - フ会館 3F	045 - 671 - 9701
神奈川県立青少年総合研修センタ -	横浜市神奈川区神之木台 22 - 14	045 - 431 - 6551
かながわ女性センタ -	藤沢市江ノ島 1 - 11 - 1	0466 - 27 - 2111代
神奈川県国際交流協会	横浜市中区山下町 2 産業貿易センタ - ビル 9F	045 - 671 - 7012
横浜市海外交流協会	横浜市中区山下町 2 産業貿易センタ - ビル 3F	045 - 671 - 7209
横浜女性フォ - ラム	横浜市戸塚区上倉田町 435 - 1	045 - 862 - 5050
かながわともしび財団	横浜市神奈川区鶴屋町 2 - 24 - 2 神奈川県政総合センタ - 内	045 - 312 - 1121代
神奈川の教育を推進する県民会議	横浜市西区紅葉ヶ丘 2	045 - 241 - 2324
かながわ女性会議	藤沢市江ノ島 1 - 11 - 1	0466 - 27 - 2111
みどりのまちながわ県民会議	横浜市中区日本大通り 33 県住宅供給公社 7F	045 - 201 - 1111代



この『はたらく地方公務員のためのボランティアガイドブック』は、平成3年度研究チームB「地方自治と市民ボランティア活動」の研究活動の中で、市民感覚を失わないためにも、公務員こそ積極的に勤務時間内外においてボランティアになる必要があり、そのきっかけづくりとなるようなガイドブックの作成を提案することになり、具体的な内容についての構成・編集をチーム員で検討し、最終的な制作を社会福祉教育研究会の木原孝久さんをお願いしてできたものです。

なお、表紙デザインと本文中のカットは、片野真由海さん、本文レイアウトは野田裕美さんにそれぞれお願いいたしました。



平成3年度研究手-4B・提言9